

【令和3年度入学生】(こども2年生)

1) 教養科目

日本の憲法	長沼 秀明	3
英語コミュニケーション	大山 健一	4
情報機器演習	江頭 幸代	5

2) 専門科目

音楽Ⅲ	宮澤, 佐藤(良), 舘岡, 松山, 山口(茜), 山口(亜)	6
音楽Ⅳ	齊藤 淳子・宮澤多英子	7
図画工作	櫻井あすみ	8
家庭	三沢 徳枝	9
児童英語	大山 健一	10
教育心理学	細渕 富夫	11
保育内容(健康)	安倍 大輔	12
保育内容(人間関係)	岩崎 桂子	13
初等教科教育法(算数)	杉野 裕子	14
初等教科教育法(生活)	齊藤 澄子	15
初等教科教育法(音楽)	齊藤 淳子	16
初等教科教育法(図画工作)	木谷 安憲	17
初等教科教育法(家庭)	三沢 徳枝	18
初等教科教育法(体育)	小山内弘和	19
初等教科教育法(英語)	大山 健一	20
特別活動の指導法	長沼 秀明	21
教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含め)	野口 周一	22
教育相談の理論と方法	木村 能成	23
生徒・進路指導の理論と方法	長沼 秀明	24
子どもの理解と実践	尾形 和男	25
児童文学	佐々木美和	26
子育て支援	佐藤 晃子	27
子ども家庭支援の心理学	千崎 美恵	28
子ども家庭福祉	佐藤 晃子	29
子どもの食と栄養Ⅱ	三沢 徳枝	30
特別支援論Ⅱ(乳・幼児への支援方法)	井上 昌士	31
特別支援論Ⅲ(児童への支援方法)	井上 昌士	32
地域子育て支援論	佐藤 晃子	33
子ども家庭支援論	佐藤 晃子	34
在宅保育	関根 久美	35
演劇	伊東 弘美	36
教育実習指導(事前事後)(幼稚園)	野口, 木谷, 関根, 佐々木, 小林	37
教育実習Ⅰ(幼稚園)	こども学科専任教員	38
教育実習Ⅱ(幼稚園)	こども学科専任教員	39
教育実習指導(事前事後)(小学校)	長沼 秀明	40
教育実習Ⅰ(小学校)	こども学科専任教員	41
教育実習Ⅱ(小学校)	こども学科専任教員	42
保育実習指導Ⅲ・Ⅳ(事前事後)	関根, 三沢, 佐藤, 小林	43
保育実習Ⅲ(保育所)	こども学科専任教員	44
保育実習Ⅳ(施設)	こども学科専任教員	45
保育・教職実践演習(幼・小)	細渕, 大橋, 野口, 長沼, 岩崎, 小林	46

3) ゼミ

保育・教育学演習Ⅱ(国語)	大橋 修一	47
保育・教育学演習Ⅱ(教育学、歴史学)	野口 周一	48
保育・教育学演習Ⅱ(造形・美術教育)	木谷 安憲	49

保育・教育学演習Ⅱ (健康科学・運動生理学)	小山内弘和	50
保育・教育学演習Ⅱ (社会認識)	長沼 秀明	51
保育・教育学演習Ⅱ (保育学)	関根 久美	52
保育・教育学演習Ⅱ (音楽教育実践学)	齊藤 淳子	53
保育・教育学演習Ⅱ (家族関係学)	三沢 徳枝	54
保育・教育学演習Ⅱ (児童文学)	佐々木美和	55
保育・教育学演習Ⅱ (子ども家庭福祉論)	佐藤 晃子	56
保育・教育学演習Ⅱ (音楽教育学)	宮澤多英子	57
保育・教育学演習Ⅱ (臨床保育学)	岩崎 桂子	58
保育・教育学演習Ⅱ (保育の社会学)	小林 佳美	59

日本の憲法 ～子どもたちを守るために憲法を学ぼう～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択

担当教員
長沼 秀明

授業概要

この科目は教育職員免許法施行規則（文部科学省令）が定める教員免許状取得のための必修科目です。授業では、憲法の重要な論点を講義します。また、教育現場をはじめとする身近な話題の中に、どんな憲法問題が潜んでいるのかを討論も交えて皆で検討します。また、「それでも生きる子供たちへ」という外国映画を観て、世界の子どもたちが直面する問題へも目を向けます。

今の日本社会に生きる子どもたちがどのような問題を抱えているのか、そして教師は子どもたちをどのように導き、守り抜いていくべきかを共に考えていきましょう。

授業計画

第1回	なぜ憲法を学ぶのか
第2回	日本国憲法第13条（その1）：個人の尊厳
第3回	日本国憲法第13条（その2）：公共の福祉
第4回	日本国憲法第26条：教育を受ける権利
第5回	身近な話題の中の憲法問題（その1）
第6回	映画で学ぶ憲法（その1）
第7回	身近な話題の中の憲法問題（その2）
第8回	映画で学ぶ憲法（その2）
第9回	身近な話題の中の憲法問題（その3）
第10回	映画で学ぶ憲法（その3）
第11回	身近な話題の中の憲法問題（その4）
第12回	映画で学ぶ憲法（その4）
第13回	身近な話題の中の憲法問題（その5）
第14回	映画で学ぶ憲法（その5）
第15回	まとめ

到達目標

日本国憲法を深く理解し、学んだことを教育現場で活かす準備ができるようになること。

履修上の注意

毎回、授業内容に関する質問票を作成・提出してもらいます。詳細は授業で指示します。遅刻3回を欠席1回に換算するので、くれぐれも遅刻しないようにしてください。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果 55% | 筆記試験の得点 45%

使用教科書名

- ・教科書名：『保育と日本国憲法』（シリーズ 保育と現代社会）
- ・著者名：橋本勇人編、長沼秀明ほか著
- ・出版社名：株式会社みらい
- ・出版年：2018年

英語コミュニケーション ～子ども英語の運用力実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期・後期	2	選択	必修	必修	選択

担当教員
大山 健一

授業概要

保育・教育現場（幼稚園・小学校・保育園）の授業を担当するために、必要な実践的な英語運用力を身に付けられるように、英語の4技能（2能力）5領域を基に、様々な話題・授業場面を意識しながら、その概要や要点を把握する活動について講義する。英語の手遊び唄や絵本の読み聞かせを習得するために、音声・文字や第二言語（外国語）習得論、児童文学や異文化理解も踏まえ、幼児英語から保育英語、児童英語までの一連の流れにおけるコミュニケーション能力の向上について指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	コミュニケーション練習（1）：こどもの園保育園
第3回	コミュニケーション練習（2）：実習初日
第4回	コミュニケーション練習（3）：お出かけ
第5回	コミュニケーション練習（4）：水遊び
第6回	コミュニケーション練習（5）：ホットケーキの日
第7回	コミュニケーション練習（6）：読み聞かせ
第8回	コミュニケーション練習（7）：すいか遊び
第9回	コミュニケーション練習（8）：お誕生日
第10回	コミュニケーション練習（9）：子どもとの遊び
第11回	コミュニケーション練習（10）：赤ちゃんニュース
第12回	コミュニケーション練習（11）：歯の妖精
第13回	コミュニケーション練習（12）：緑の目の魔女
第14回	実践練習（1）：手遊び唄
第15回	実践練習（2）：絵本の読み聞かせ

到達目標

- ①授業実践に必要な聞く力・話す力〔やり取り・発表〕・読む力・書く力を身に付けることができる。
- ②音声・文字や第二言語（外国語）習得について基礎的な内容を理解することができる。
- ③英語圏の子ども文化を学び、異文化に親しむ保育・教育活動に生かすことができる。
- ④英語の手遊び唄や絵本の読み聞かせを使った保育・教育活動を行うことができる。

履修上の注意

幼稚園教職課程・小学校教職課程・保育士希望の履修者が望ましい。
 小学校教職課程希望の履修者は「児童英語」「初等教科教育法（英語）」を同時に履修することが望ましい。
 授業開始後15分までを遅刻とし、遅刻2回につき欠席1回とカウントします。

予習・復習

- ・予習：次の授業に備えて与えられた課題を行う。
- ・復習：授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

評価方法

レポート 40%	課題 30%	授業態度 30%
----------	--------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：『Children's Garden』
- ・著者名：赤松直子
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年：2009年

情報機器演習 ～コンピューター・リテラシー～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択

担当教員
江頭 幸代

授業概要

パソコンの基礎的な学習、windowsの基本的な操作から始め、ワード（Word）を利用した文字入力、表計算ソフト（Excel）の活用、インターネットを利用した情報の検索と収集、パワーポイントの使い方を講義する。講義では、上記のソフトの使い方を身につけるとともに、講義全体を通じて、保育活動に有効なパソコンの利用方法を考えていき、今後のさらなるスキルアップにつながるように講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス（パソコンの基礎知識）、windowsの基本的な操作
第2回	Word①（文書作成、字体の変更）
第3回	Word②（図形の挿入、図形描画、文書デザイン）
第4回	Word③（クラスだより作成）
第5回	Word④（チラシ作成一段組み、写真・絵の挿入）
第6回	Word⑤（保護者への文書作成）
第7回	Excel①（表作成一出勤簿、月謝袋）
第8回	Excel②（グラフ作成）
第9回	Excel③（関数の利用1）
第10回	Excel④（関数の利用2）
第11回	Power Point①（スライド作成の基礎）
第12回	Power Point②（アニメーション効果）
第13回	Power Point③（運動会のプログラム作成）
第14回	Power Point④（ひなまつり、卒園式の案内作成）
第15回	園児のためのパソコン利用法の検討とまとめ

到達目標

本講義の目標は、パソコンを操作し、目的とする作業を行い、効率的に情報が処理できるように、パソコンソフト（ワード、エクセル、パワーポイント）の基本的な操作方法を身に付けることである。また必要な情報を得ることができる能力や相手に伝わりやすい文書のレイアウトの構成を考えていく。

履修上の注意

パソコンにログインできるパスワードの紙（入学時に配布）を準備しておくこと。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：教科書を読んでおくこと。
- ・復習：授業中の課題を完成させること。

評価方法

授業態度（10%）	定期試験（筆記）（70%）	課題の提出（20%）
-----------	---------------	------------

使用教科書名

- ・教科書名：「世界一やさしいエクセルワードパワーポイント2019/Office365対応」
- ・著者名：トップスタジオ
- ・出版社名：インプレスムック
- ・出版年：2020年

音楽Ⅲ ～保育者・教育者としての音楽実践力の育成～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	選択必修	選択必修	選択必修

担当教員
宮澤・佐藤(良)・館岡・山口(茜)・山口(亜)・松山

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽Ⅱ」と同様に、クラス授業とピアノの個人レッスンを45分交代で実施する。音楽Ⅰ、Ⅱ及び保育内容（表現・音楽）で学んだ内容を発展させ、保育者・教育者としての音楽実践力を高めるために、歌唱・ピアノ等の音楽表現、音楽活動の模擬実習、音楽の基礎的な理論（楽典）を指導する。

クラス授業では、音楽文化財である「季節のうた」と「わらべうた」を取り上げ、子どもの生活の中で歌い継がれてきたうたの楽しさを感じ取り、音楽的特徴を理解する。また、教育実習に向けて音楽指導の模擬実習を計画し、発表を行う。同時に他者の模擬実習を子どもの目線をもって体験し、協働的に学ぶ。音楽の基礎的な理論（楽典）では、記譜法について学び、楽譜の書き方を身に付ける。

ピアノの個人レッスンでは、子どもが親しみやすい行進曲や芸術曲の演奏に取り組み、楽曲のイメージを広げたりふさわしい音楽表現を工夫したりしながら、ピアノ演奏の技能を高める。

授業計画

第1回	オリエンテーション、季節のうた①（6月）	個人レッスン【春休み課題】
第2回	楽典①記譜法（楽譜の書き方の基本）	個人レッスン（行進曲）
第3回	楽典②記譜法（両手伴奏の楽譜の作成）	個人レッスン（行進曲）
第4回	わらべうた①（「わらべうた」の音楽的特徴）	個人レッスン（行進曲）
第5回	わらべうた②（伝承遊び体験と指導法）	個人レッスン（行進曲）
第6回	わらべうた③（伝承遊び体験と指導法）	個人レッスン（行進曲）
第7回	【音楽活動の模擬実習（発表と体験・振り返り）】	
第8回	【中間実技試験（「季節のうた」の弾き歌い／「行進曲」のピアノ演奏）】	
第9回	季節のうた②（夏）、教育実習での音楽指導の振り返り	個人レッスン（芸術曲）
第10回	季節のうた③（秋）	個人レッスン（芸術曲）
第11回	季節のうた④（冬）	個人レッスン（芸術曲）
第12回	季節のうた⑤（春）	個人レッスン（芸術曲）
第13回	ミュージックベル・トーンチャイムの実技と指導法①	個人レッスン（芸術曲）
第14回	ミュージックベル・トーンチャイムの実技と指導法②	個人レッスン（芸術曲）
第15回	期末試験（芸術曲のピアノ演奏）リハーサル	個人レッスン（芸術曲）

到達目標

- ・自身の演奏技能に応じ、両手伴奏や片手伴奏によって「季節のうた」の弾き歌いができる。
- ・記譜法の基礎を理解し、伴奏楽譜を書くことができる。
- ・教育実習で実現したい音楽活動の模擬実習を計画し、発表することができる。
- ・楽曲の良さや美しさなどを感じ取り、イメージを広げながらふさわしい音楽表現を工夫して歌ったりピアノを演奏したりすることができる。

履修上の注意

- ・幼稚園教諭及び保育士の資格取得予定者は履修すること。
- ・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。
- ・クラス授業と個人レッスン両方に出席しないと欠席扱いとなるので注意すること。

予習・復習

- ・予習：ピアノの個人レッスンで次回までに指示された楽曲を演奏できるように毎日練習する。
- ・復習：授業で学習した楽曲やピアノレッスンで合格した既習曲の弾き歌いやピアノ演奏を週2回程度練習し、保育者となるためのレパートリーとして維持する。

評価方法

実技試験 50%（中間 20%・期末 30%） 課題 30%（模擬授業 20%・記譜 10%） 学習態度 20%

使用教科書名

- ・「音楽Ⅱ」の教科書『3つのコードで楽しく弾ける ピアノ伴奏集』を引き続き使用する。
- ・資料を配布するため、保存用のスクラップブックとのりを毎回必ず持参すること。

音楽Ⅳ ～保育・教育現場における実践力及び指導力を身に付ける～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	-	-

担当教員
齊藤・宮澤

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

選択人数や学習内容により指導形態は変わるが、第8回までは合同授業と個人レッスンを、第9回からは合同授業を中心に行う。保育・教育現場での実践にすぐに役立つ教材の演習を通し、実践法や指導法を身に付けられるよう、全ての回について小・中学校教員の実務経験を活かして指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス，初見演奏①，音色の違いに注目したボディパーカッション	
第2回	初見演奏②，身近な言葉に置き換えたリズム唱の演習	個人レッスン
第3回	初見演奏③，ボディパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第4回	初見演奏④，ボイスパーカッションによるアンサンブル	個人レッスン
第5回	初見演奏⑤，保育実践での器楽教材の演習①連弾・重奏に向けて	個人レッスン
第6回	初見演奏⑥，「あくび」「ため息」「犬のおなか」を模倣した発声法	個人レッスン
第7回	初見演奏⑦，保育実践での歌唱教材の演習①活舌をよくするための歌	個人レッスン
第8回	中間実技試験	
第9回	保育実践での器楽教材の演習②器楽合奏に向けて	
第10回	保育実践での器楽教材の演習③器楽合奏に向けた練習方法について	
第11回	保育実践での器楽教材の演習④器楽合奏	
第12回	保育実践での器楽教材の演習⑤指揮法	
第13回	保育実践での歌唱・器楽教材の演習①劇あそび体験	
第14回	楽譜作成に関する演習①楽譜作成ソフトの使い方	
第15回	保育実践での器楽教材の演習⑥連弾・重奏発表に向けて	

到達目標

就職後の音楽活動について、柔軟な感覚と実践力を持って指導できるための力を養う。

履修上の注意

大学で個人レッスンを受けられる最後の授業であるが、音楽Ⅰ～Ⅲのようにレッスンの先生はおらず、授業者がレッスンを行うため、これまで以上にレッスン時間は非常に短くなる。そのため、短時間のレッスンが有効に機能するよう必ず練習をして授業に臨むこと。また、個人レッスンが受けられない日もあるが、その場合は個人練習をしっかりと行うこと。さらに、連弾・重奏は一人ではできないため、ペア・グループで合わせる時間を作って練習を進めること。

なお、履修希望者が多く定員に達した場合は、履修届の先着順とする。

遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

レパートリーを増やすためには、予習・復習となる練習が必須である。

評価方法

実技試験 70%(中間 30%・期末 40%) | 連弾・重奏発表 10% | 学習態度・練習状況・提出物 20%

使用教科書名

- ・音楽Ⅰ～Ⅲで使用した教科書
- ・その他、適宜、資料を配布する(A4サイズのスクラップブックを準備すること)

図画工作 ～子どもによりそう造形表現活動の実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	選択必修	必修

担当教員
櫻井あすみ

授業概要

幼児期にふさわしい様々な造形表現活動を実際に行いながら、学びの記録をポートフォリオに残し振り返ることを通して、子どもの気持ちによりそい、その感性を育むとともに、深い学びを導くことのできる保育者となることを目指す。

幼児期の造形表現活動において、素材が刻々と変化していく様子は大きな驚きであり、その変化を楽しむなかで複雑な自己表現も立ち上がっていく。そうした幼児期の感覚を追体験することで、造形表現に対する構えを解きほぐすとともに、驚きや喜びを子どもと分かち合えるような活動の指導の方法について具体的に考えられるように指導する。

授業計画

第1回	授業ガイダンス・「なぐりがきで描いてみよう」
第2回	「私の好きな形・色」
第3回	「色水あそび」
第4回	ポートフォリオ制作
第5回	「折り紙かざり」
第6回	ポートフォリオ制作
第7回	「絵具あそび」(ローラー・スタンプング)
第8回	ポートフォリオ制作
第9回	「小麦粉ねんど」
第10回	ポートフォリオ制作
第11回	「新聞紙で変身」
第12回	ポートフォリオ制作
第13回	「光であそぶ」
第14回	ポートフォリオ制作
第15回	ポートフォリオ表紙制作・まとめ

到達目標

- ・幼児の視点で驚きや喜びを体験し、幼児期の造形表現活動について理解を深める。
- ・造形表現活動に親しみ、楽しみながら表現できるようになる。
- ・子どもの気持ちに寄り添い、深い学びを導く活動を計画・指導する方法を具体的に考えられる。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席しないよう心がけること。遅刻30分で欠席扱いとする。
- ・事情があり遅刻・欠席する場合は課題に代えるので、前もって連絡すること。
- ・A4のクリアブック(20ポケット以上)、汚れてもよいエプロンを準備すること。
- ・デジタルカメラ(スマートフォンで可)を必ず持参すること。
- ・はさみ・のり・クレヨン・絵具等、必要な画材・道具等は都度指示する。

予習・復習

- ・予習：次の活動内容をよく確認し、忘れ物のないように心がけること。
- ・復習：ポートフォリオを活用し、学んだことを現場で生かせるように振り返ること。

評価方法

授業内課題 60%	学期末試験 30%	受講態度 10%
-----------	-----------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：『ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版』
- ・著者名：北沢昌代・畠山智宏・中村光絵
- ・出版社名：開成出版
- ・出版年：2019年

家庭 ～小学校家庭科で何を学ぶのか～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

家族の生活や衣食住、消費と環境に関する生活事象を振り返り、生活者の視点から講義をする。履修者が小学校家庭科の授業担当者として、児童が持続可能な社会の一員として、生活をより良くする方法を考え工夫できるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス 小学校家庭科で学習する内容について
第2回	家庭生活と家族 ①自分と家族の生活
第3回	家庭生活と家族 ②地域の多様な世代との関わり
第4回	消費生活と環境 ①金銭の役割と契約、消費者教育と金融教育
第5回	消費生活と環境 ②持続可能な社会、環境に配慮した生活の工夫
第6回	衣食住の生活 ①衣服の機能と取り扱い
第7回	衣食住の生活 ②基礎的な縫い方
第8回	衣食住の生活 ③生活を豊かにする物の製作（手縫い）
第9回	衣食住の生活 ④生活を豊かにする物の製作（ミシン縫い）
第10回	衣食住の生活 ⑤食事の役割と献立作成、災害への備え
第11回	衣食住の生活 ⑥食育と味覚教育
第12回	衣食住の生活 ⑦調理の基礎と食文化
第13回	衣食住の生活 ⑧住まいの機能、新しい住まい方
第14回	衣食住の生活 ⑨住まいの機能、集住と共生
第15回	振り返りとまとめ

到達目標

健康で安心・安全・快適な生活を送るために必要な基礎的・基本的な知識、技能を習得する。持続可能な社会における協働や共生について考え、より良い生活を改善工夫する態度を身につける。

履修上の注意

製作実習では事前に材料と道具を各自用意する。授業開始から30分以内の遅れは遅刻とする。

予習・復習

- ・予習：学習範囲を見直しておく
- ・復習：配布資料等を整理し学習内容を振り返る

評価方法

授業内レポート、テスト 60%	製作物、課題 30%	発表 10%
-----------------	------------	--------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・出版年：平成30年

児童英語 ～子ども英語の理論と小学校英語科教育法～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	必修	-

担当教員
大山 健一

授業概要

「小学校外国語教育についての基本的な知識・理解」「子どもの第二言語習得についての知識とその活用」「指導技術」「授業作り」を枠組みとして、小学校英語の変遷を知り、第二言語（外国語）習得論（母語習得論を含む）を基にした外国語教授法について講義する。また、様々な教材を理解し、絵本や歌などの教材研究を行い、国際理解教育・評価・カリキュラムデザインから効果的な活用方法を講義・指導する。更に、2020年からの教科化に伴い、小学校英語で扱うことになる英語の4技能（2能力）5領域についても導入方法と小学校段階での適切な扱い方を講義・指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	小学校における英語教育（1）：外国語活動・外国語科の経緯
第3回	小学校における英語教育（2）：学習指導要領における児童英語
第4回	言語習得理論と関連領域（1）：第二言語習得論
第5回	言語習得理論と関連領域（2）：言葉の仕組み
第6回	外国語教授法（1）：指導法の概観・歴史
第7回	外国語教授法（2）：指導理論上の諸問題
第8回	国際理解教育（1）：ねらい
第9回	国際理解教育（2）：教材
第10回	評価の意義と評価方法（1）：評価の意義
第11回	評価の意義と評価方法（2）：振り返り表
第12回	カリキュラムデザイン（1）：カリキュラム・時間割の作成
第13回	カリキュラムデザイン（2）：単元の組み立て方
第14回	小学校の英語授業作り（1）：協同学習
第15回	小学校の英語授業作り（2）：外国語活動

到達目標

- ①小学校における英語教育の在り方の基本について理解することができる。
- ②第二言語（外国語）習得のプロセスについて基礎的な内容を理解することができる。
- ③言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）の方法について理解することができる。
- ④小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領・教科用図書について理解することができる。

履修上の注意

小学校教職課程希望の履修者が望ましい。

「初等教科教育法（英語）」を同時に履修することが望ましい。

授業開始後15分までを遅刻とし、遅刻2回につき欠席1回とカウントします。

予習・復習

- ・予習：次の授業に備えて与えられた課題を行う。
- ・復習：授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

評価方法

レポート・課題	40%	発表	30%	授業態度	30%
---------	-----	----	-----	------	-----

使用教科書名

- ・教科書名：『小学校英語科教育法』
- ・著者名：金森強
- ・出版社名：成美堂
- ・出版年：2019年

教育心理学 ～子どもの学びをどう支援するか～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	必修	必修	必修	-

担当教員
細渕 富夫

授業概要

教育心理学は、教育におけるさまざまな問題を心理学の視点から分析し、効果的な教育活動により問題解決につなげようとする科学である。授業では、教育心理学の基本的事柄について、配布資料に基づいて図表を提示しつつ丁寧に講義する。心理学的なものの見方・考え方が理解できるように映像資料も活用しながら進めていきたい。

授業計画

第1回	ガイダンスー授業計画と授業の進め方ー
第2回	教育心理学とは何か
第3回	発達における遺伝と環境
第4回	ピアジェの発達論
第5回	学習の理論①古典的条件づけ
第6回	学習の理論②オペラント条件づけ
第7回	学習の理論③洞察、観察学習、モデリングなど
第8回	動機づけの理論①さまざまな動機について
第9回	動機づけの理論②外発的動機づけと内発的動機づけ
第10回	動機づけと学習
第11回	個人差の測定①質問紙法、投影法、作業法
第12回	個人差の測定②知能検査の開発と発展（ビネー系、ウェックスラー系）
第13回	教育評価
第14回	障害のある子どもの教育①（発達障害）
第15回	障害のある子どもの教育②（重症心身障害）

到達目標

- ・教育心理学の基礎的事項をおおむね理解している
- ・教育問題への心理学的アプローチの基礎についておおむね把握している

履修上の注意

- ・必修科目としてしっかり学んでほしい
- ・配布プリントはファイルし、整理しておくこと

予習・復習

- ・予習：テキストの関連ページをよく読んでおくこと
- ・復習：配布資料をファイルしつつ、取り上げた用語・人名等を整理しておくこと

評価方法

試験（レポート）70%	授業への積極性・態度等 20%	授業中の質問等 10%
-------------	-----------------	-------------

使用教科書名

- ・教科書名：『やさしい教育心理学』第5版
- ・著者名：鎌原雅彦他
- ・出版社名：有斐閣
- ・出版年：2019年

保育内容（健康）

～子どものこころとからだの健やかな育ちとは～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	必修	-	必修

担当教員
安倍 大輔

授業概要

・保育所保育指針ならびに幼稚園教育要領における「健康」ではどのような子どもの育ちを目指しているのかを講義する。
 ・こころとからだが大いに発達する乳幼児期の基礎的な知識について講義する。主に、(1)子どものこころとからだの発達、(2)子どもの遊び、(3)基本的な生活習慣の獲得、(4)安全管理・安全教育について講義する。

授業計画

第1回	「健康」領域のねらいと内容
第2回	子どものからだの発達
第3回	現代の子どものこころとからだを取り巻く問題
第4回	子どもの遊び①～子どもにとって遊びとは～
第5回	子どもの遊び②～子どもの遊びを保障する取り組み～
第6回	子どもの遊び②～伝承遊び・屋外の遊び・季節の遊び～
第7回	子どもの遊びの支援①
第8回	子どもの遊びの支援②
第9回	基本的な生活習慣①
第10回	基本的な生活習慣②
第11回	現代社会と子どもの生活習慣
第12回	食育
第13回	安全管理・安全教育
第14回	子どもとメディア
第15回	保育内容健康のまとめ

到達目標

- ① 子どものこころとからだの発達について理解する。
- ② 子どもの発達にとって遊びが持つ意義と果たしている役割を理解する。
- ③ 保育・幼児教育における安全管理・安全教育の内容と方法を習得する。
- ④ 現代の子どもの健康を取り巻く諸問題について理解する。

履修上の注意

必ず教科書を購入し受講すること。遅刻は3回で1回の欠席とする。

予習・復習

- ・予習：日常的にインターネットや新聞等を通じて子どもの健康について関心を持ち情報を得るとともに、そうした諸問題について自分の考えを持つようにして欲しい。
- ・復習：教科書・配布資料でその日の内容を振り返り、質問があれば次回の授業でして欲しい。

筆記試験 60%	中間小レポート 40%	%
----------	-------------	---

- ・教科書名：新版 保育者をめざす 保育内容「健康」
- ・著者名：安倍大輔・井筒紫乃・川田裕次郎
- ・出版社名：圭文社
- ・出版年：2019年

保育内容(人間関係) ～子どもと保育者でつくる人間関係～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	-	必修

担当教員
岩崎 桂子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

本授業では、乳幼児の人間関係について、毎回、乳幼児の園生活の塩蔵資料を紹介し、人と関わる力や心の働きが育つ過程の長期的な見通しが持てるように解説する。そしてそれを支える保育者の関わりについて具体的な指導・援助の行為とその背景にある心の働きを見取ることができる見方を養成する。さらに現代の家庭や地域における人間関係の特徴と課題について、保育を営む上で基本的な認識を解説する。受講生自らで考え、実践で生かせるようなディスカッションや事例検討を行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション：人間関係とは何かを解説する
第2回	乳幼児期の「人間関係」がその後の「人間関係」に及ぼす影響
第3回	保育における「人間関係」を学ぶ領域「人間関係」-
第4回	保育者が作る「人間関係」-保育者が築く「人間関係」-
第5回	0歳児と人の関わる力の育ちについて-安心できる人との関わりについて事例検討-
第6回	1歳児と人の関わる力の育ちについて-周囲のもの、人への興味の広がりについて事例検討-
第7回	2歳児と人の関わる力の育ちについて-自我の芽生え、自己主張を支える事例検討-
第8回	3歳児の人と関わる力の育ちについて-ケンカを通じた心の育ちと保育者の関わりについて事例検討-
第9回	4歳児の人と関わる力の育ちについて-個人と集団の関係について事例検討-
第10回	5歳児の人と関わる力の育ちについて-集団意識、協調性について事例検討-
第11回	6歳児の人と関わる力の育ちについて-協力してやり遂げる関係について事例検討-
第12回	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携について
第13回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク-
第14回	人間関係の育ちを見通した保育計画を考える-グループワーク発表-
第15回	多様化する社会の人間関係-保育者として学び合い、育つとは-まとめ

到達目標

- ・人と関わる力が育つ過程について、乳児期から幼児期の終わりまでの見通しを理解する。
- ・人間関係が育つ保育の基本的なあり方について、保育者の意図を見取って理解する。
- ・多様化する保育の特徴と課題について理解し、向き合う姿勢を身につける。

履修上の注意

- ・映像資料で使用するワークシートを保管するファイルを用意する。
- ・ワークシートは期限内に必ず提出すること。・授業に対して積極的な態度で臨むこと。
- ・遅刻（授業開始20分）3回で欠席1回とする。

予習・復習

- ・予習：事前に映像資料の解説を配布するので、子どもや保育者の関わりを深く捉えられるように理解しておく。次回の学習範囲を伝えるのでテキストを読んでおく。
- ・復習：返却されたワークシートを見直しておく。必要に応じて授業外でグループでの話し合いを進めておく。

評価方法

学期末試験 50%	授業内ワークシート 30%	受講態度 20%
-----------	---------------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-第2版
- ・著者名：編者：横山真貴子
- ・出版社名：教育情報出版
- ・出版年：2019年

初等教科教育法（算数） ～算数授業の基礎と実践力育成～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	前期	2	選択	-	選択必修	-	杉野 裕子

授業概要

算数科の授業についての基礎的知識と指導法について知るために、「教材研究（教科書分析）」→「学習指導案作成（授業構成）」→「模擬授業（実践）」→「検討会（次の授業へ生かす）」という、PDCAサイクルに載せた流れと、それぞれの位置づけについて解説をし、続いて体験的に指導する。特に、模擬授業は、一連の流れで準備と練習を行い、発表をする。授業者以外全員が児童役を演じ、直後に意見を交わす授業検討会で指導を行い、授業を観る力を養う。

授業計画

第1回	オリエンテーション、『学習指導要領算数編第4章』、教材と児童と教師
第2回	授業での情報の流れ、教材研究と学習指導案作成と模擬授業の位置づけ
第3回	教科書分析の仕方、「わり算」単元の内容、単元導入部分の分析（等分除の場面の理解）
第4回	「わり算」単元の、教具の使用・式の指導・計算のしかた部分の教科書分析演習
第5回	学習指導案の形式の理解と具体的な事項の書き方
第6回	第3学年「わり算」学習指導案の作成演習
第7回	実際の模擬授業とその進め方
第8回	第1学年の模擬授業「たしざん」検討会
第9回	第2学年の模擬授業「長さ」検討会
第10回	第3学年の模擬授業「三角形」検討会
第11回	第4学年の模擬授業「わり算の筆算」検討会
第12回	第5学年の模擬授業「小数のかけ算」検討会
第13回	第6学年の模擬授業「分数÷分数」検討会
第14回	現職教員による第1学年「いくつといくつ」から学ぶ、指導技術についてのまとめ
第15回	プログラミングを活用した第4学年「角の大きさ」、観察記録作成演習

到達目標

教育実習生として、算数科の授業を構成し、実践できることを目標とする。

- ・算数の教科書について教材分析ができる。
- ・授業を構成して、学習指導案として書き上げることができる。
- ・模擬授業実践を通して、基礎的な指導技術を身に付ける。
- ・模擬授業への児童役としての参加と授業検討会を通して、授業を観る視点を獲得する。

履修上の注意

本授業を履修する場合には、1年の時に選択科目「算数」を履修してください。模擬授業を通して、教材や授業に関して考え実践する力は教員の必須のため、積極的に取り組むこと。

30分を越える遅刻は入室を認めず欠席扱いとする。30分以下の遅刻3回で欠席1回分とする。

予習・復習

教科書分析および学習指導案作成演習で、授業内で出来なかった部分については宿題とする。模擬授業にあたっては、指定された単元について、教科書分析と学習指導案作成および準備物作成・授業練習を、授業外で学参し、教員の事前指導を受けること。終了後は反省レポートを作成。

評価方法

学習指導案作成 20%	模擬授業の一連 40%	観察記録 10%	論述筆記試験 20%	受講態度 10%
-------------	-------------	----------	------------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：学習指導要領解説 算数編 (算数の教科書等は、資料を配布)
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：日本文教出版
- ・出版年：2018

初等教科教育法（生活） ～生活科を通して子どもの育ちを推進するために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
齋藤 澄子

授業概要

小学校教育における生活科の意義や創設の趣旨を理解し、生活科教育の理論や実践事例を通して、生活科の実践的な指導力が身につくように指導する。そのために具体的な指導方法や授業実践を紹介しながら、生活科の目標・学習内容・単元づくりについて講義し、実際に学習指導案作成・模擬授業を行っていく。学習指導案の検討や模擬授業の授業活動では、学生の自己表現活動の力を引き出しつつ、他者への共感やコミュニケーション力を高めていく。また、生活科における情報機器の活用について理解し、ICTを活用した授業構成を理解したり必要な技能を高めたりできるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス（授業の目的と進め方、生活科の創設について知る）
第2回	生活科の教科目標、学年目標、体験活動
第3回	生活科の内容構成（3つの階層性と9つの内容についての確認）
第4回	内容の取扱いについての配慮事項
第5回	接続期の教育（スタートカリキュラム）
第6回	生活科の単元構成と指導計画
第7回	子どもの表現と生活科の学習評価
第8回	授業構成と授業の実際（授業実践例を通して）
第9回	学習指導案の作成①（単元を決め学習指導案を作成する）
第10回	学習指導案の作成②（学習指導案を発表し合い、意見交換を通して学習指導案の検討をする）
第11回	模擬授業①（模擬授業を実施し、授業の流れや改善案を考える）
第12回	模擬授業②（模擬授業を通して学習評価のあり方を考える）
第13回	模擬授業③（授業要素についての学びを深める）
第14回	ICTを活用した生活科の授業
第15回	講義のまとめ（児童成長と学びを導く生活科と教師の役割）

到達目標

- ・小学校における生活科教育の意義、目標、指導内容についての理解を深める
- ・接続期教育を理解したり生活科の単元構成を考えたりしながら、具体的な授業イメージをもち、学習指導案を作成したり模擬授業を行ったりできる。
- ・ICTを活用した生活科の授業づくりについて理解することができる。

履修上の注意

- ・講義を聞くだけでなく、実際の授業づくりの演習を取り入れた授業であるので、協働的に学ぶ姿勢を大切にすること。
- ・授業を欠席した場合は、その日の授業内容や課題の把握に努めること。

予習・復習

- ・予習：シラバスを確認する以外にも、授業で次回の講義についての予告をするので、事前に必ずテキストをよく読み、講義内容が理解できるように予習しておくこと。
 - ・復習：授業でとったノートを整理し、自分の言葉で学んだことをまとめておくこと。
- ※予習、復習共に毎回30分以上の時間をかけること。（質問等あれば次回の授業で対応します）

評価方法

・受講姿勢や授業コメント 40%	・学期末試験 60%
------------------	------------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版
- ・出版年（ISBN）：2018年（978-4-491-03464-5）

初等教科教育法（音楽）～音楽科の授業づくりに必要な理論と指導法の演習～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
齊藤 淳子

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校音楽科の目標や指導内容、指導計画、指導展開及び評価を含めた基礎的な理論、情報通信技術の活用について理解を深めるとともに、学習指導案作成と模擬授業の実践を通して音楽科の授業づくりについて学ぶ。また、教材研究の方法を含めた音楽科の授業づくりについて、小・中学校教員としての実務経験を生かして指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容について
第2回	音楽科の指導内容と指導計画及び評価、音楽教育主要用語について
第3回	「歌唱」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信記述の活用）
第4回	「器楽」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第5回	「鑑賞」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第6回	「音楽づくり」の学習指導案と授業体験及び指導内容と教材研究（情報通信技術の活用）
第7回	学習指導案の理解、ワークシートづくりについて
第8回	学習指導案の作成、ワークシートの作成
第9回	音楽教育史及び音楽史について
第10回	中間筆記試験（学習指導要領等、教員採用試験対策）及び解説
第11回	「歌唱」の模擬授業
第12回	「器楽」の模擬授業
第13回	「鑑賞」の模擬授業
第14回	「音楽づくり」の模擬授業
第15回	まとめ、音楽科における関連と連携

到達目標

小学校学習指導要領（音楽）の目標・各学年の目標及び内容、指導計画、指導展開、評価等について理解した上で、学習指導案を作成し、授業を実践することができる力を身につける。

履修上の注意

- ・現場に出た際に、「音楽専科がいるから大丈夫」と思わず、音楽専科がない学校へ着任したり、自分が音楽専科になる可能性もあるということを念頭に置いて授業を受けること。
- ・模擬授業は教師・児童役を体験します。少人数での授業ですので、意欲的に取り組みましょう。
- ・ソプラノリコーダーまたは鍵盤ハーモニカを使用する予定です。なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により別の楽器で代用する場合があります。
- ・学習指導案やワークシートについてはパソコンで作成してもらいますので、パソコンが苦手な人は、基本的な操作や文字の打ち込みに慣れておきましょう。
- ・遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

- ・予習：音楽の各技能の向上を目指すには、日々の練習が欠かせません。演習がある際は、必ず事前に練習をして授業に臨みましょう。
- ・復習：学習指導要領や配布資料を熟読し、内容の理解に努めましょう。特に前半は、教員採用試験対策も含めています。

評価方法

筆記試験（40%）	学習指導案・模擬授業（40%）	学習態度・課題提出（20%）
-----------	-----------------	----------------

使用教科書名

- ・教科書名：『三訂版 小学校音楽科の学習指導 ―生成の原理による授業デザイン―』
- ・著者名：小島律子（監修）
- ・出版社名：廣済堂あかつき株式会社
- ・出版年：2018年
- *その他、適宜、資料を配布する（スクラップブックを準備すること）

初等教科教育法(図画工作)

～図工で育てる思考力、判断力、表現力～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
木谷 安憲

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校の教育課程における図画工作科における役割や性格について講義し、それを踏まえて実技制作を行う。1学年から6学年までの作品制作をする中で、教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識・理解を習得できるよう、授業全体を通して指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス(受講者自身の振り返り。小学校時代の図工に関して)
第2回	図画工作科の目標および内容
第3回	第1・2学年の目標と内容について講義をする
第4回	第1・2学年の目標と内容についての演習を行う
第5回	第3・4学年の目標と内容について講義をする
第6回	第3・4学年の目標と内容についての演習を行う
第7回	第5・6学年の目標と内容について講義をする
第8回	第5・6学年の目標と内容についての演習を行う
第9回	模擬授業のための指導案を書く
第10回	模擬授業1
第11回	模擬授業2
第12回	模擬授業3
第13回	模擬授業4
第14回	授業分析と授業評価について講義・演習を行う
第15回	まとめ(情報機器及び教材の活用を含む)

到達目標

小学校図画工作科の教科内容、指導方法等の基本的な事項について、指導者に必要な知識理解とともに実践的な技能・態度を培うことを目標とする。

履修上の注意

実技を行うための描画材や材料は各自用意する。
30分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席とする

予習・復習

- ・予習：次回の授業で扱われる学年部分の小学校学習指導要領を読む。
- ・復習：制作した作品を、小学校学習指導要領に書かれている部分を踏まえて振り返る。

評価方法

指導案・課題作品(70%)	レポート(30%)
---------------	-----------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：日本文教出版
- ・出版年：2018年

初等教科教育法（家庭） ～小学校家庭科の内容と指導方法～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

小学校家庭科を指導するために、家庭科の意義や目標、教科の特性、指導方法等について講義する。社会の変化や児童の実態に対応した指導上の配慮をしながら指導方法を工夫して、学習指導案を作成し、さらに授業改善に取り組むことが出来るように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、家庭科教育の変遷と家庭科で育む資質・能力
第2回	家庭科を学ぶ意義（位置づけと中学校技術・家庭との系統性）
第3回	小学校学習指導要領の目標と家庭科の目標
第4回	小学校家庭科の内容（指導上の留意点及び他教科との関連）
第5回	小学校家庭科の授業づくり（学習指導の特徴と方法、学習指導計画と評価計画）
第6回	学習指導案の作成と指導の留意点
第7回	教材研究①（家族・家庭生活の授業とガイダンス的内容の扱い）
第8回	教材研究②（課題解決学習の進め方）
第9回	教材研究③（衣食住の生活の授業）
第10回	教材研究④（消費生活・環境に関する授業）
第11回	指導方法の工夫①（ICTを活用した授業の設計）
第12回	指導方法の工夫②（逆向き設計の授業とパフォーマンス課題）
第13回	模擬授業①情報機器を活用する授業
第14回	模擬授業②つまづきのある児童への指導方法の工夫
第15回	家庭科教育の課題とまとめ

到達目標

小学校家庭科の意義や目標、教科の特性を理解し、実践研究の動向を踏まえて、児童の実態を視野にいれた授業設計ができる。他教科との関連や中学校との系統性を考慮し教材研究を行い、指導上の配慮や学習評価を理解して学習指導案を作成できる。模擬授業では授業の振り返りを通して、授業改善の視点を持ち実践に生かせる。

履修上の注意

使用教科書を用意する。参考図書として小学校家庭科教科書を用いる。授業開始から30分以内を遅刻とする。

予習・復習

- ・予習：学習する範囲の学習指導要領解説や教科書を読む
- ・復習：学習した内容を振り返り、教科書で確認する

評価方法

授業内レポート、テスト 60%	模擬授業 30%	発表 10%
-----------------	----------	--------

使用教科書名

教科書名：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編
 ・著者名：文部科学省
 ・出版社名：東洋館出版社
 ・出版年：平成30年
 教科書名：新しい教職教育講座 教科教育編8 初等家庭科教育
 ・著者名：三沢徳枝/勝田映子編著
 ・出版社名：ミネルヴァ書房
 ・出版年：2020年

初等教科教育法（体育） ～実感から実践に向けて～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	-

担当教員
小山内弘和

授業概要

自らの体育の学習観を再確認し、小学校における体育科教育について考え、その上で、講義を通して授業づくりをする上での基盤を構築するよう講義する。さらに、実際に指導案を作成し、体育の指導についての理解を深め、よりよい授業づくりに向けて基礎を養うよう指導する。

授業計画

第1回	体育の在り方の理解と体育の学習観について
第2回	体育の目標と概要
第3回	各領域の編成と学びの系統性、評価について理解する
第4回	体育の授業づくりについて
第5回	体育授業の基礎的・内容的条件について理解する
第6回	体育の教材研究について理解する（ICTの活用を含む）
第7回	指導案作成・教材研究のための資料収集（実感）
第8回	指導案作成・教材研究のための資料収集（評価・分析）
第9回	模擬授業の学習指導案の作成
第10回	模擬授業のシミュレーション
第11回	模擬授業および授業分析（その1） 模擬授業
第12回	授業評価および分析（その1） 授業評価
第13回	模擬授業および授業分析（その1） 授業分析
第14回	授業評価および分析（その2） 授業分析
第15回	全体評価・分析・まとめ

到達目標

初等教科教育法（体育）の特徴を学び、知識・理解の蓄積から、授業づくりの基盤を確立し、体育授業の計画・実践・評価分析ができる資質を養う。

履修上の注意

- ・実践を行う際は、それに適した服装をすること。
- ・遅刻は3回で1回の欠席とする。
- ※履修者の状況により、内容を変更する場合がある。

予習・復習

- ・予習：指導要領解説を確認すること。また、日常的なスポーツ・運動活動やそれらの観戦を積極的に行うこと。それにより、実践力の向上や種目の特性の理解し、授業作成に生かすことに繋がる。
- ・復習：既習の授業プリントは再度見直した上で授業に臨むこと。その上で、指導案作成においては授業内容を反映した指導案を作成すること。

評価方法

授業への貢献度及び授業態度（40%）	模擬授業指導案（20%）	模擬授業（40%）
--------------------	--------------	-----------

使用教科書名

- ・教科書名：小学校学習指導要領解説（体育編）※巻末、小学校学習指導要領含む
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館出版社
- ・最新版

初等教科教育法(英語)

～子ども英語の実践と小学校英語科教育法～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	必修	-

担当教員
大山 健一

授業概要

「小学校外国語教育についての基本的な知識・理解」「子どもの第二言語習得についての知識とその活用」「指導技術」「授業作り」を枠組みとして、小学校学習指導要領に定められている外国語活動・外国語科の指導内容の基準について講義・指導する。また、「外国語の音声や基本的な表現」「自分の考えや気持ちなどを伝え合う力」「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」において、マイクロティーチングや模擬授業を通して体験的に指導する。更に、教材・ICT研究から指導案の作成方法を講義・指導する。その上で、1単位時間分程度の模擬授業を指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	特別支援教育における外国語活動(1):概要
第3回	特別支援教育における外国語活動(2):指導上の留意点
第4回	クラスルーム・イングリッシュの活用(1):使う意味
第5回	クラスルーム・イングリッシュの活用(2):使用の留意点
第6回	求められる教育の資質(1):必要な資質
第7回	求められる教育の資質(2):参加する際の留意点
第8回	教材の使い方・選び方(1):歌とチャンツ
第9回	教材の使い方・選び方(2):教材選択・開発
第10回	ICTの効果的な活用(1):音声指導との関連
第11回	ICTの効果的な活用(2):文字指導との関連
第12回	指導の基本と留意ポイント(1):1時間指導の組み立て方
第13回	指導の基本と留意ポイント(2):振り返りと自己評価表
第14回	文字指導の在り方(1):読む活動
第15回	文字指導の在り方(2):書く活動

到達目標

- ①児童の特性や習熟度に応じた指導について理解することができる。
- ②英語による授業展開の方法について理解することができる。
- ③学習到達目標に基づく授業の組み立てを考え、学習指導案を作成し、指導に生かすことができる。
- ④5分～10分のマイクロティーチングや15分～20分の模擬授業を行うことができる。

履修上の注意

小学校教職課程希望の履修者が望ましい。
 「児童英語」を同時に履修することが望ましい。
 授業開始後15分までを遅刻とし、遅刻2回につき欠席1回とカウントします。

予習・復習

- ・予習: 次の授業に備えて与えられた課題を行う。
- ・復習: 授業で気付いたこと、学んだことを振り返り、記録をつける。

評価方法

レポート・課題	20%	指導案・模擬授業	20%	発表	30%	授業態度	30%
---------	-----	----------	-----	----	-----	------	-----

使用教科書名

- ・教科書名: 『小学校英語科教育法』
- ・著者名: 金森強
- ・出版社名: 成美堂
- ・出版年: 2019年

特別活動の指導法 ～集団活動を学び、実践する～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	必修	-

担当教員
長沼 秀明

授業概要

「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点および「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授業計画

第1回	特別活動の意義、目標および内容（1）学習指導要領における特別活動の目標と主な内容
第2回	特別活動の意義、目標および内容（2）教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連
第3回	特別活動の意義、目標および内容（3）学級活動・ホームルーム活動の特質
第4回	特別活動の意義、目標および内容（4）児童会活動、クラブ活動、学校行事の特質
第5回	特別活動の指導法（1）教育課程全体で取り組む特別活動の指導のあり方
第6回	特別活動の指導法（2）特別活動における取組の評価・改善活動の重要性
第7回	特別活動の指導法（3）合意形成に向けた話し合い活動の準備
第8回	特別活動の指導法（4）合意形成に向けた話し合い活動の指導
第9回	特別活動の指導法（5）合意形成に向けた話し合い活動の評価
第10回	特別活動の指導法（6）意思決定につながる指導
第11回	特別活動の指導法（7）集団活動の意義
第12回	特別活動の指導法（8）集団活動の準備
第13回	特別活動の指導法（9）集団活動の指導
第14回	特別活動の指導法（10）集団活動の評価
第15回	特別活動の指導法（11）特別活動における家庭・地域住民・関係機関との連携のあり方

到達目標

学校教育全体における特別活動の意義を理解し、特別活動に必要な視点を持つとともに、特別活動の特質をふまえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

履修上の注意

集団活動の実践として、皆で力をあわせて、学級活動を具体的に企画・立案し、実践します。毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。

学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻3回を欠席1回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果 55%

筆記試験の得点 45%

使用教科書名

- ・教科書名：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館
- ・出版年：平成30年
- ・教科書名：『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
- ・著者名：文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ・出版社名：文溪堂
- ・出版年：2019年

教育方法論(総合的な学習の時間の指導法を含む)～先人に学び「教育のこころ」を知ろう～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択必修

担当教員
野口 周一

授業概要

いま教育問題は大きな転換期を迎えている。例えば、学校の存在価値、教育の内容、授業の様式、教師のあり方が問われている。そういう時代であればこそ、教育上の諸問題を具体的に検討する必要がある。本講義では現代的課題をみすえつつ、さまざまな諸問題について講義する。また講義のほか、テキストを読み込み、ディスカッションしながら「教育のこころ」について考えていきたい。

授業計画

第1回	教育方法の概要について学ぶ
第2回	教育方法の歴史について学ぶ (1) ソクラテス、コメニウスを扱う。
第3回	同上 (2) ルソーを扱う。
第4回	同上 (3) ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリを扱う
第5回	同上 (4) デューイを扱う。
第6回	同上 (5) シュタイナーを扱う。
第7回	授業論について学ぶ (1) 授業とは何か。
第8回	同上 (2) 問題解決学習、体験的学習などを扱う。
第9回	総合的な学習の時間について学ぶ (1) 各自の体験を語る。
第10回	同上 (2) 「青い目の人形」を事例として考える。
第11回	学力と教育評価について学ぶ—学力とは、評価とは、フィンランドの事例を扱う。
第12回	教材・教具について学ぶ—教材研究と教師の力量などを扱う。
第13回	教育メディアについて学ぶ
第14回	教職の専門性について学ぶ—教師像、教師文化、教師教育の課題を扱う。
第15回	授業のまとめ

到達目標

教育の一般的知識になじみ、「教育の心」を知り、自分なりの教育者・保育者像を描こう。

履修上の注意

新聞などを通して、現代の教育問題と社会の関連に絶えず関心を持ち続けることが望ましい。
遅刻した場合は、遅刻分の課題を課す。

予習・復習

- ・予習：講義資料を事前に配布するので、それを読み込むこと。
- ・復習：検討すべき課題を指示する。

評価方法

論述試験：80% 授業への取り組み姿勢：20%

使用教科書名

- ・教科書名：いのち輝く子ら
- ・著者名：松田高志
- ・出版社名：NPO 法人くだけかけ会
- ・出版年：初版2006年

教育相談の理論と方法 ～子どもの心の理解と関係づくり～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	選択

担当教員
木村 能成

授業概要

本授業では、子どもと関わる際に必要な教育相談の基礎知識、生じうる問題、教育相談の具体的手法を講義する。また、アクティブ・ラーニングとしてグループ・ワークを用い、体験を通して事例を理解できるよう指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス 教育相談とは何か
第2回	教育相談の基礎知識（1）カウンセリングの代表理論について
第3回	教育相談の基礎知識（2）カウンセリングの基礎技法について
第4回	教育相談の基礎知識（3）教師のカウンセリングマインドについて
第5回	子どもの発達と心理的課題（1）幼児期
第6回	子どもの発達と心理的課題（2）児童期
第7回	子どもの発達と心理的課題（3）思春期
第8回	教育相談の実際：不登校・不登園
第9回	教育相談の実際：いじめ
第10回	教育相談の実際：発達障害
第11回	教育相談の実際：児童虐待
第12回	教育相談の実際：精神障害・心身症 1
第13回	教育相談の実際：精神障害・心身症 2
第14回	教育相談の予防的活用
第15回	教育相談におけるグループ・アプローチの活用

到達目標

- （1）小学校・幼稚園・保育園における教育相談の意義および理論、具体的手法を説明できる。
- （2）教育相談における専門職・専門機関の活用について説明できる。
- （3）児童・生徒の発達段階に応じた課題と、生じうる危機について説明できる。
- （4）生じうる問題への理解と対応について基礎的な知識を説明し、体験を通じた事例理解ができる。
- （5）教育相談の予防的活用について説明できる。

履修上の注意

- （1）20分以上の遅刻は欠席扱い、遅刻3回で1回の欠席とする。リアクションシートの未提出は欠席とする。
- （2）全ての授業でリアクションシートの提出を求め、翌週の授業開始時に授業担当者がフィードバックする。
- （3）許可の無い限り、機器の如何にかかわらず授業内容の撮影・録音を禁ずる。

予習・復習

- ・予習：配布資料や教材に目を通し、疑問点や知りたい点を考えておくこと。
- ・復習：分かった点や興味を持った点、よくわからない点についてまとめておくこと。（疑問点については授業内でフィードバックを行う）

評価方法

定期試験 60%	リアクションシート 30%	受講態度 10%
----------	---------------	----------

使用教科書名

各授業のパワーポイント資料。その他、適宜資料を配布する。

生徒・進路指導の理論と方法 ～児童が生きる今を知り、指導・援助する～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	必修	-

担当教員
長沼 秀明

授業概要

生徒指導は、一人ひとりの児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる。他の教職員や関係機関と連携しながら生徒指導を進めていくために必要な知識・技能を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付けられるよう、指導する。

授業計画

第1回	生徒指導の意義と原理（1）教育課程における生徒指導の位置付け
第2回	生徒指導の意義と原理（2）各教科・道徳教育・総合学習・特別活動における生徒指導の意義
第3回	生徒指導の意義と原理（3）集団指導・個別指導の方法原理
第4回	生徒指導の意義と原理（4）生徒指導体制と教育相談体制—基本的な考え方と違い—
第5回	児童全体への指導（1）校務分掌と学校指導方針および年間指導計画に基づく組織的な取組
第6回	児童全体への指導（2）生徒指導のあり方—基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成—
第7回	児童全体への指導（3）児童及の自己存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方
第8回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例1）
第9回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例2）
第10回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例3）
第11回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例4）
第12回	個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（具体例5）
第13回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（1）進路指導・キャリア教育の意義および理論
第14回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（2）ガイダンスとしての指導
第15回	進路指導・キャリア教育の理論と方法（3）カウンセリングとしての指導

到達目標

生徒指導・進路指導は学習指導と並ぶ重要な教育活動である。組織的に生徒・進路指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言・行動して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻3回を欠席1回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果 55%	筆記試験の得点 45%
-----------	-------------

使用教科書名

- ・教科書名：『生徒指導提要』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：教育図書
- ・出版年：2010年
- ・教科書名：『事例で学ぶ生徒指導・進路指導・教育相談 小学校編（改訂版）』
- ・著者名：長谷川啓三・花田里欧子・佐藤宏平編
- ・出版社名：遠見書房
- ・出版年：2019年

子どもの理解と実践 ～子どもの内面を知り、豊かな成長を支える～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	必修	-	必修

担当教員
尾形 和男

授業概要

保育や教育の実践において実際の子どもに即して関わることは子どもの一人一人の心身の発達や学びを最適に進めるために重要である。そのために子どもの日々の生活や遊びの過程の中で子ども理解する上での基本的な考え方、子どもを理解する視点、子どもを理解するための具体的方法、そして子どもの理解に基づく保育士や教師の援助や対応の基本について指導する。

授業計画

第1回	保育や教育における子どもの理解と意義
第2回	子どもの理解に基づく保育及び教育の展開(実際の保育園の子どもの生活と保育士・教師の関わりの様子を確認しよう)
第3回	子どもについての共感的理解と子どもとの関わりの必要性
第4回	子どもの理解① 身体と運動機能の発達
第5回	こどもの理解② 言葉の発達、思考の発達
第6回	こどもの理解③ 遊びの変化、友達関係の発達、思いやりの心(共感性)の発達
第7回	子どもの友達関係と社会的成長を支える保育士・教師の役割
第8回	事例から学ぶ① 子どもの遊びと相互の関わり・関係づくり
第9回	事例から学ぶ② 集団での経験(競争、達成感、協力)と子どもの成長
第10回	事例から学ぶ③ 葛藤やつまずき(いざこざ・ケンカ)と子どもの成長
第11回	事例から学ぶ④ 子どもの成長と保育士・教師の関わり
第12回	子どもの理解とカンファレンス
第13回	ロール・プレイを通して子どもの理解を深める(その意義と必要性)
第14回	ロール・プレイの実践を通して子ども・保育士・教師の関わりを深める
第15回	子どもの理解と保育士・教師の対応のあり方についてのまとめ

到達目標

1. 保育や教育の実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。
2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。
3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

履修上の注意

1. 毎回出席を取るので休まないこと。
2. 私語・携帯は慎むこと。
3. 授業には積極的に参加すること。授業中は質問していくので積極的に発言するように心掛けること。
また、内容を深めるためにグループごとのディスカッションと意見交換により進めることもある。
4. 内容に応じて、小テストを実施することがある。

予習・復習

1. 予習: 各回の授業については事前に目を通し調べておくこと。授業の内容によっては、予習・復習を兼ねてレポートを課すことがある。
2. 復習: 講義内容は基本的なことが中心となるので、関連するものについては各自関心を広げること。

評価方法

レポート提出 30%	平常点(小テスト) 30%	定期試験 40%
------------	---------------	----------

使用教科書名

テキストは特には使用しない。授業では配布資料に基づいて進めるが、内容に応じて関連する図書を紹介する。

児童文学 ～もっと知っておきたい子どもの本の世界～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	選択必修	選択必修

担当教員
佐々木美和

授業概要

子どもと本との関りには、必ず保護者や保育者といった大人が、その橋渡しを担っている。この授業では、教育や保育の現場で活用する「絵本」を教材とし、教員や保育士が理解しておくべき児童文学のジャンルや代表的な作品について講義する。その上で、保育活動で使用する絵本を“選ぶ力”が身につくように指導する。

児童文学と称される領域は多岐にわたるが、この授業の受講生が卒業後に求められる専門性を意識して、主に「絵本」を例に用いながら説明する。また、ブックスタートやブックトークといった児童読書活動についても講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス：「児童文学」とは
第2回	伝承文学（日本の昔話）
第3回	言葉遊び絵本（回文、しりとり、アナグラム、落語など）
第4回	幼年向け童話①（宮沢賢治、古田足日、寺村輝夫など）
第5回	幼年向け童話②（神沢利子、中川李枝子、海外作品など）
第6回	海外童話① グリム童話
第7回	海外童話② アンデルセン童話
第8回	ファンタジー（日本）佐藤さとる、上橋菜穂子など
第9回	ファンタジー（海外）M.エンデ、A.A.ミルン、ルイス・キャロルなど
第10回	マンガ・アニメーション① やなせたかし「アンパンマン」
第11回	マンガ・アニメーション② 絵本に繋がるアニメーション作品
第12回	ブックスタートからブックトークへ
第13回	テーマ別絵本探究① 履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第14回	テーマ別絵本探究② 履修生と相談して決めた「テーマ」に則した絵本について
第15回	テーマ別絵本探究③ まとめ

到達目標

- ・児童文学、特に幼年向け童話や絵本に関する保育者として求められる知識を身につける。
- ・多様な絵本やジャンルやテーマを理解し、教育・保育活動で活用する技能を身につける。
- ・子どもと本を繋げる役割を自覚し、その意欲を高める。

履修上の注意

- ・事前に配布された資料や指定された絵本は、必ず読んで授業に臨む。
- ・授業時にも、多くの絵本に目を通してもらう。毎回、講義内容を踏まえて各自の意見の述べる機会を設け、授業の最後に「授業シート」の記入を求める。
- ・是非授業には、主体的・積極的に参加してもらいたい。
- ・遅刻は3回で1回の欠席とみなす。

予習・復習

- ・予習：配布資料や事前に指定された絵本や童話作品を読む
- ・復習：授業時に配布された絵本を読み、その特徴を授業内容と結びつけて確認する

評価方法

発表など授業時の活動	50%	レポート	40%	授業シート等の提出物	10%
------------	-----	------	-----	------------	-----

使用教科書名

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やワークシートを配布する。

子育て支援 ～保育者の専門性を活かした子育て支援の実際～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	前期	1	選択	-	-	必修	佐藤 晃子

授業概要

本授業では、現代において子育て支援が必要とされる社会的背景や子育てをめぐる現代的課題、そこにおける保育者の役割を踏まえた上で、保育者の専門性を活かした子育て支援（保育相談支援）の特性と展開、具体的な内容、方法について、事例を通して指導する。ケーススタディーをもとに、子育て支援の様々な対象や場面、展開過程等保育者が行う子育て支援の実際と、保護者理解や支援の方法・技術を学び、指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション／子育て支援とは
第2回	子ども・子育て家庭の現状と子育て支援の課題
第3回	子育て支援の意義
第4回	「子どもの最善の利益」の保障と子育て支援
第5回	子育て支援の基本的価値・倫理
第6回	子育て支援の基本的姿勢
第7回	子育て支援の基本的技術
第8回	園内・園外との連携と社会資源
第9回	記録・評価・研修
第10回	日常会話・文書を活用した子育て支援
第11回	行事などを活用した子育て支援
第12回	環境を活用した子育て支援
第13回	地域子育て支援拠点における支援
第14回	入所・通所施設における子育て支援
第15回	子育て支援と保育者の役割／まとめ

到達目標

- 1) 子育て支援の社会的な必要性やニーズ、そこにおける保育者の役割について理解する。
- 2) 保育の専門性を背景とした、保育士の保護者に対する相談、情報提供、行動見本の提示等(保育相談支援)について、その特性と展開を理解する。
- 3) 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、事例等を通して具体的に理解する。

履修上の注意

- ・ 遅刻3回で欠席1回とする。
- ・ 遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。

予習・復習

- ・ 予習：翌回のテーマに関する内容について、自分なりに調べておくこと。
- ・ 復習：教科書を読み直し、授業の振り返りとまとめをしておくこと。

評価方法

課題（各回のワークシート）	70%	受講態度（参加度含む）	30%
---------------	-----	-------------	-----

使用教科書名

二宮祐子『子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林、2020年

子ども家庭支援の心理学 ～子どもの発達援助につながる子育て支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	選択	-	-	必修

担当教員
千崎 美恵

授業概要

保育現場で必要となる子どもの発達と子どもを取り巻く環境について理解し、保護者支援に向き合う意義と姿勢を学べるよう講義する。保育実践において学修内容が活用できるよう、事例を取り入れて、イメージを明確化した上で、他者の意見を取り入れながら自分の考えを持てるよう講義する。病院や保健相談所での発達相談・育児支援の経験を生かし、子どもの発達援助につながる子育て支援の現代的課題の理解を深められるように講義する。

授業計画

第1回	生涯発達の考え方と理論を学び、ライフサイクルと発達課題について理解する
第2回	乳幼児期から学童期前期の発達課題と援助について学ぶ
第3回	学童期後期・思春期・青年期の発達課題と援助について学ぶ
第4回	成人期・老年期の発達課題と援助について学ぶ
第5回	子育てをめぐる社会と家族の変化を学び、保育における子育て支援について考える
第6回	親子の関係性と子育て期における家族の問題と援助について理解する
第7回	多様化するライフコースと子育て経験における親としての育ちについて学ぶ
第8回	現代の多様な家庭の実態（ひとり親家庭・里親・外国籍の家庭など）について理解する
第9回	特別な配慮を必要とする家庭（病気や心疾患、発達障害、虐待など）を理解する
第10回	子育てに困難さを抱える親と子どもの発達との関連と援助の視点を学ぶ
第11回	発達支援を必要とする子どもや医療的ケア児を育てる家庭の課題と援助について学ぶ
第12回	子どもの心の健康にかかわる症状の理解とその援助について学ぶ
第13回	子どもの発達と子育て支援に関わる現代的課題を考える：グループでの課題提案
第14回	子どもの発達と子育て支援に関わる現代的課題を考える：グループで理解を深める
第15回	子どもの発達と子育て支援に関わる現代的課題を考える：グループワーク発表

到達目標

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。
2. 子どもの発達と心の健康にかかわる課題について理解する。
3. 親子関係や家族関係について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
4. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。

履修上の注意

保育士資格取得のための必修科目である。テキストにあるキーワードや演習問題を中心に講義を行うので、テキストは必ず持参すること。グループワークには積極的に参加すること。適時、確認テストや課題提出を実施する。遅刻3回で欠席1回とする。

予習・復習

- ・予習：授業前にテキストを読んで、授業時に理解が深まるようにすること。
- ・復習：テキスト、配布資料を振り返り、演習課題に取り組み、理解を深める。疑問点は担当教員に質問して解決し、学修の定着を図ること。

評価方法

定期試験 50%	確認テスト・課題の提出と内容 30%	受講態度、グループワーク参加・発表 20%
----------	--------------------	-----------------------

使用教科書名

- ・教科書名：子ども家庭支援の心理学
- ・著者名：青木紀久代 編
- ・出版社名：みらい
- ・出版年：2019年

子ども家庭福祉 ～すべての子どもの育ちを支える福祉とは～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	2	必修	-	-	必修

担当教員
佐藤 晃子

授業概要

本授業では、子どもやその家族を取り巻く社会状況を踏まえた上で、子ども家庭福祉の理念、歴史、制度、実施体系等子ども家庭福祉の基本的な知識について講義する。特に、子ども家庭福祉の中心となる子どもの権利や権利擁護という考え方について、保育者として実践につなげることができるよう、具体的な事例に即して理解を深める。また、現代の子どもをめぐる福祉的な課題について、新聞・雑誌記事や映像資料等を用いてできる限り多くの事例を紹介し、指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション／子ども家庭福祉とは何か
第2回	現代社会と子ども家庭福祉
第3回	子どもの権利と権利擁護
第4回	子ども家庭福祉の成立と展開
第5回	子ども家庭福祉の制度と法体系
第6回	子ども家庭福祉の機関と施設
第7回	子育て支援・次世代育成支援と保育施策
第8回	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策
第9回	子ども虐待とDV問題の防止施策
第10回	社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策
第11回	障害のある子どもへの福祉施策
第12回	非行問題等を抱える子どもへの支援
第13回	子どもと貧困
第14回	子ども家庭福祉の専門職と連携
第15回	子ども家庭福祉の今後の課題／まとめ

到達目標

- 1) 子ども家庭福祉の理念、歴史、制度、実施体系等、子ども家庭福祉の基本的な知識について理解する。
- 2) 子どもの権利や権利擁護という考え方について、実践と関連づけて理解する。
- 3) 現代の子どもをめぐる福祉的な課題に関心を深め、現状を理解し、今後のあり方について考察する。

履修上の注意

- ・ 遅刻3回で欠席1回とする。
- ・ 遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。

予習・復習

- ・ 予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み、疑問点について調べておくこと。
- ・ 復習：授業のレジュメ、教科書を読み直し、授業の振り返りとまとめをしておくこと。

評価方法

最終レポート 60%	課題（授業内課題・小レポート等） 30%	受講態度 10%
------------	-------------------------	----------

使用教科書名

喜多一憲監修、堀場純也編集『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉』みらい、2020年

子どもの食と栄養Ⅱ ～子育ての食支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	-	必修

担当教員
三沢 徳枝

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

家庭や児童福祉施設における幼児期、学童期から思春期の子どもの食生活の現状と課題を概観し、望ましい食生活のための食育の意義・目的・基本的考え方、内容等を指導する。家庭や保育所等における特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、関連するガイドラインやデータを踏まえて指導する。そして特別な配慮を要する子どもへの対応について実践的手法の理解を深められるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス、子どもの食と栄養Ⅰの振り返り
第2回	子どもの発育・発達と食生活 ①幼児期、思春期の心身の特徴と食生活
第3回	子どもの発育・発達と食生活 ②学童期の心身の特徴と食生活、成人期の食生活 栄養上の問題と健康への対応
第4回	食育の基本と内容 ①学校における給食及び食育の推進
第5回	食育の基本と内容 ②保育における食育の意義と考え方 保育所保育指針における食育の推進
第6回	食育の基本と内容 ③地域や家庭と連携した食育の展開
第7回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ①家庭における食事と栄養
第8回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 ②児童福祉施設における食事と栄養
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ①疾病及び体調不良の子どもへの対応
第10回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ②アレルギー疾患を持つ子どもへの対応
第11回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ③障がいのある子どもへの食事と対応 摂食・嚥下障がい児の食事
第12回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ①食を通じた保護者への支援
第13回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ②保育所における給食と保護者との連携
第14回	家庭や保育所等における食育・栄養教育 ③地域資源との連携
第15回	学習の振り返りとまとめ

到達目標

家庭や児童福祉施設における子どもの食生活の現状と課題を知り、望ましい食生活のための食育の基本と内容が理解できる。家庭や保育所等における特別な配慮を要する子どもへの対応について、指導の実践化への道筋を掴むことが出来る。

履修上の注意

子どもの食と栄養Ⅰの履修者が望ましい。また、授業開始から30分以内の遅れは遅刻とする。最後のまとめで授業時に指示した資料や配布資料及び課題を使用するので整理しておく。グループ討議等の学習活動に積極的に参加する。

予習・復習

- ・予習：テキストや指示された資料を読み、Teamsの課題をする。
- ・復習：学習した内容を課題に追記して復習する。

評価方法

授業内レポート・テスト	60%	課題	30%	発表	10%
-------------	-----	----	-----	----	-----

使用教科書名

- ・教科書名：子どもの食と栄養～保育現場で活かせる食の基本
- ・著者名：太田百合子・堤ちはる編著
- ・出版社名：羊土社
- ・出版年：2019年

特別支援論Ⅱ(乳・幼児への支援方法) ～特別な支援を要する乳・幼児への適切な支援を行うために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	必修	-	必修

担当教員
井上 昌士

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ、特別な支援を要する子どもの支援について、以下の3点を重点的に指導する。

- 障害児保育の基本的知識
- 子どもの理解と発達の援助
- 家庭及び関係機関との連携

授業計画

第1回	オリエンテーション 「障害のある子どもとは」
第2回	気になる子どもとは
第3回	障害に関する法律・制度の理解
第4回	障害のある子どもの特徴(1) 感覚と運動
第5回	障害のある子どもの特徴(2) 認知・コミュニケーション
第6回	障害のある子どもの保育における理解
第7回	障害のある子どもに配慮した環境設定
第8回	障害のある子どもに配慮した関わりとコミュニケーション
第9回	障害のある子どもと他の子どもとの関わり
第10回	保護者・家族との理解と支援
第11回	地域の関係機関との連携と個別の支援計画
第12回	就学支援と小学校との連携
第13回	個別支援計画の作成と観察・記録・評価
第14回	インクルーシブ保育について
第15回	まとめ 障害児保育の現状と課題

到達目標

- 特別な支援を要する子どもへの具体的な支援方法を理解する。
- 関係する専門機関の機能やその役割について理解する。
- 保護者への支援について、その具体的な方法や内容について理解する。
- 保育の記録や個別の支援計画の役割や必要性、活用について理解する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻3回で欠席1回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読み、概要を把握しておく。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

評価方法

学期末試験 60%	提出物、授業内レポート等 20%	受講態度 20%
-----------	------------------	----------

使用教科書名

- 教科書名：障害児保育
- 著者名：監修 市川奈緒子
- 出版社名：ミネルヴァ書房
- 出版年：2020年
- 各回資料(PPTスライド等)を配布する。

特別支援論Ⅲ(児童への支援方法) ～特別な教育的ニーズを要する児童に要する具体的な支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	1	選択	-	必修	-

担当教員
井上 昌士

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

特別支援論Ⅰの内容を踏まえ、小学校に在籍する特別な教育的ニーズを要する児童への支援について、具体的な支援や指導内容等の検討・演習を通して以下の4点を重点的に指導する。

- 小学校における特別支援教育体制
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法
- 各教科等における指導内容や指導方法の工夫
- 通常の学級、通級による指導、特別支援学級における指導の実際

授業計画

第1回	オリエンテーション 特別な教育的ニーズとは インクルーシブ教育とは
第2回	小学校における特別支援教育体制の理解
第3回	学習指導要領から読み解く小学校における特別支援教育
第4回	「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成と活用
第5回	ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた支援の工夫
第6回	知的障害児への支援
第7回	肢体不自由児、病弱・身体虚弱児への支援
第8回	視覚障害児、聴覚障害児への支援
第9回	発達障害のある児童への支援
第10回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫①
第11回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫②
第12回	各教科等における指導内容や指導方法の工夫③
第13回	特別支援教育コーディネーターと校内支援体制及び保護者への支援
第14回	母国語や貧困の問題により特別な支援を要する児童への支援
第15回	まとめ

到達目標

- 指導の実際を知り、小学校における特別支援教育体制を理解する。
- 特別な教育的ニーズを要する児童への具体的な支援方法を理解する。
- 各教科等における具体的な指導内容や指導方法の工夫について理解する。

履修上の注意

- 授業中の基本的なマナーを守ること。
- 遅刻3回で欠席1回とする。
- 遅刻、早退、欠席については直接担当教員に申し出ること。
- やむを得ず授業を欠席した場合は、必ず授業資料を受け取りに来ること。

予習・復習

- 予習：次回の授業内容に関連する学習指導要領等の該当部分を事前に確認しておく。必要に応じて課題を提示する。
- 復習：教科書と授業で使用した資料等を使って学んだ内容を整理し確認する。

評価方法

学期末試験 60%	提出物、授業内レポート等 20%	受講態度 20%
-----------	------------------	----------

使用教科書名

- 教科書名：①小学校学習指導要領②小学校学習指導要領解説総則編③特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
- 著者名：①～③文部科学省
- 出版社名：①②東洋館出版社 ③開隆堂出版
- 出版年：①～③2018
- 各回資料(PPTスライド等)を配布する。

地域子育て支援論 ～地域の多様なネットワークと子育て支援～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	-	選択必修

担当教員
佐藤 晃子

授業概要

近年、地域の子育て支援は保育者にとって重要な役割となっている。他方、地域社会には、多様な組織・団体、施設があり、子育てや子どもの育ちを支える様々な取り組みが行われ、ネットワークが形成されている。本授業では、幼稚園・保育所のみならず児童館、公民館などの各種地域施設、またボランティア団体、NPO等各種団体など、様々な主体による地域子育て支援の実践について取り上げ、その現状と課題について映像資料等を用いて検討する。また、受講生自身が地域子育て支援のプログラムを作成し、発表・相互検討を行い、指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション／「地域子育て支援」が必要とされる背景
第2回	幼稚園における子育て支援
第3回	保育所における子育て支援
第4回	児童館における子育て支援
第5回	公民館等における子育て支援
第6回	NPOによる子育て支援①子育てサロン、子育てネットワーク
第7回	NPOによる子育て支援②プレイパーク
第8回	保護者主体の子育て支援
第9回	地域子育て支援における自治体の役割
第10回	子育て支援をめぐる政策・制度
第11回	世界の子育て支援
第12回	地域子育て支援プログラムの考え方と実際
第13回	地域子育て支援プログラムの作成
第14回	地域子育て支援プログラムの発表と相互検討
第15回	「地域子育て支援」の今後の課題／まとめ

到達目標

- 1) 地域において子育て支援が必要とされる背景を理解する。
- 2) 具体的な地域活動の現状と課題について理解する。
- 3) 子育てを支援するための政策・制度について理解する。
- 4) 地域における子育て支援プログラムを作成できるようになる。

履修上の注意

- ・ 遅刻3回で欠席1回とする。
- ・ 遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。

予習・復習

- ・ 予習：翌回のテーマに関する内容について、自分なりに調べておくこと。
- ・ 復習：授業のレジュメ、資料を読み直し、授業の振り返りとまとめをしておくこと。

評価方法

受講態度（参加度含む）	50%	課題レポート及び発表	50%
-------------	-----	------------	-----

使用教科書名

特になし。各回でレジュメ、資料を配布する。

子ども家庭支援論 ～様々な家庭と子どもを支援するために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	-	必修

担当教員
佐藤 晃子

授業概要

本授業では、保育者が子どもとその家庭を支援していくために必要な知識と基本的な態度について理解することを目的とし、子ども家庭支援の意義と役割、保育士による子ども家庭支援の基本、子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について講義する。また、現代社会における子どもや家庭への支援の必要性や多様な支援のニーズをおさえた上で、保育所等保育施設における子育て家庭への支援、さらには市区町村レベルでの子育て支援のあり方について指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション／子ども家庭支援とは何か
第2回	子ども家庭支援の目標と機能
第3回	子ども家庭支援における保育者の役割
第4回	保育士に求められる基本的態度
第5回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援
第6回	保護者との相互理解と信頼関係の形成
第7回	家庭の状況に応じた支援
第8回	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
第9回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第10回	次世代育成支援対策と子ども・子育て支援新制度の推進
第11回	子ども家庭支援の対象と内容
第12回	保育所等利用児童とその家庭への支援
第13回	地域の子育て家庭への支援
第14回	要保護児童およびその家庭への支援
第15回	子ども家庭支援の現状と課題／まとめ

到達目標

- 1) 子ども家庭支援の意義や目的について理解する。
- 2) 保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。
- 3) 子育て家庭に対する支援の体制とその多様な展開について理解する。
- 4) 子ども家庭支援の現状と課題について理解、考察する。

履修上の注意

- ・ 遅刻3回で欠席1回とする。
- ・ 遅刻、早退、欠席については、直接担当教員に申し出ること。

予習・復習

- ・ 予習：各回の教科書の該当部分を事前に読み、疑問点について調べておくこと。
- ・ 復習：授業のレジュメ、教科書を読み直し、授業の振り返りとまとめをしておくこと。

評価方法

最終レポート	60%	課題（授業内課題・小レポート等）	30%	受講態度	10%
--------	-----	------------------	-----	------	-----

使用教科書名

倉石哲也・伊藤嘉余子監修、倉石哲也・大竹智編著『MINERVA 初めて学ぶ子どもの福祉4 子ども家庭支援』ミネルヴァ書房、2020年

在宅保育 ～ベビーシッターの仕事～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	-	-	選択必修

担当教員
関根 久美

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

ベビーシッターの職務について、教科書解説、DVD 視聴、演習などを通して、具体的、実践的に学ぶ。施設保育と家庭訪問保育の共通点、差異を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	子ども子育て支援新制度における「居宅訪問型保育」と「ベビーシッター」について
第 3 回	一般的ベビーシッターの業務について
第 4 回	子どもの発達とそのケア①
第 5 回	子どもの発達とそのケア②
第 6 回	子どもの発達とそのケア③
第 7 回	子どもの発達とそのケア④
第 8 回	産後ケアについて（解説）
第 9 回	産後ケアについて（演習①）
第 10 回	産後ケアについて（演習②）
第 11 回	子どもの遊びについて
第 12 回	様々な依頼への対応
第 13 回	安全管理について
第 14 回	保育計画、保育報告について
第 15 回	振り返りとまとめ

到達目標

ベビーシッターの職務について理解する。その理解が的確で実践することができるか否かの試験に合格し、認定資格を取得する。

履修上の注意

保育士資格取得者としてのベビーシッター認定資格取得を目的とする授業であることを自覚して受講すること。

遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：テキストを熟読しておく。
- ・復習：演習したことは、自宅などで振り返り実践してみる

評価方法

試験 90%	授業態度 10%
--------	----------

使用教科書名

- ・教科書名：家庭訪問保育の理論と実践
- ・著者名：公益社団法人全国保育サービス協会 監修
- ・出版社名：中央法規出版
- ・出版年：2019 年

演劇 ～想像力と創造力～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	-	-	-

担当教員
伊東 弘美

授業概要

演劇のツールを通して、コミュニケーション能力、表現力、想像力を伸ばすように指導する。

授業計画

第1回	空間認識、仲間を知り、自分自身の開放をめざす。
第2回	同上
第3回	ストーリーを作る。既成の物語を言葉を紡いで再生する。
第4回	ストーリーを作る。課題に沿って、オリジナルのストーリーを作る。
第5回	ミラーゲーム。相手の動きをよく観察し自分の身体を使って表現する。
第6回	1つの音を歌って、皆で一曲にする。
第7回	「外郎売り」を使って、表現力、集中力をたかめる。
第8回	単音を使って、表現する。
第9回	ジブリッシュを使って、表現する。
第10回	朗読劇を通して、読解力、表現力の向上をめざす。
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	試験に向けてのブラッシュアップ

到達目標

表現力を使って、人とのコミュニケーションを円滑にできるようになる。

履修上の注意

動きやすい服装が、好ましい。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

予習・復習は、授業内で指示します。

評価方法

定期試験 50%	授業態度 50%
----------	----------

使用教科書名

特になし

教育実習指導(事前事後)(幼稚園)

～教育実習を有意義な体験にするために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期・前期	1	選択	必修	-	-

担当教員
野口・木谷・関根・ 佐々木・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ(幼稚園)それぞれについて、実習に向けての事前指導と実習を終えてからの事後指導を講義する。

授業計画

第1回	教育実習の概要と事前事後指導の流れ
第2回	実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第3回	実習生としてのマナーと心構え
第4回	課題を明確にして教育実習に取り組むために
第5回	実習日誌について①—日誌の意義を理解する
第6回	実習日誌について②—日誌の書き方を学ぶ
第7回	「教育実習Ⅰ」の振り返りと「教育実習Ⅱ」に向けた自己課題
第8回	「教育実習Ⅱ」学内オリエンテーション
第9回	「教育実習Ⅱ」実習先事前訪問(オリエンテーション)について
第10回	実習日誌について③—場面の記録の書き方を理解する
第11回	指導案作成①—指導案の意義を理解する
第12回	指導案作成②—指導案の書き方を学ぶ
第13回	指導案作成③—指導案に沿った保育の展開を理解する
第14回	教育実習Ⅱの課題と心構え
第15回	「教育実習Ⅱ」の振り返りと今後の課題

到達目標

1. 教育実習Ⅰ

- ・マナーを守り、意欲的に教育実習Ⅰに取り組むために課題を明確して実習に臨む。
- ・3歳から5歳の発達を理解し、幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
- ・保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができるようになり実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを自主的に進められる。
- ・教育実習Ⅰを振り返り、教育実習Ⅱの課題を明確にできる。

2. 教育実習Ⅱ

- ・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
- ・保育者の援助の意図を感じ取り、「気づき」を日誌に書くことができるようになって実習に臨む。
- ・＜導入、展開、まとめ＞の一連の流れを指導案として作成できる。
- ・子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができ、指導計画の準備をして実習に臨む。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
- ・教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- (1) 予習：次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
- (2) 復習：課題を完成させ、期日内に提出できるように自主的に準備を進める。

評価方法

授業態度・課題の提出物・出席状況により、総合的に評価する。

使用教科書名

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、最新版
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』わかば社、2015年

教育実習 I (幼稚園)

～幼児理解・幼稚園教諭の仕事の理解に向けて～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択	必修	-	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

実際に幼稚園の生活や教育活動を体験する中で、園生活の流れと幼児の生活、発達の姿、幼稚園教諭の職務を理解できるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間
2022年11月10日～11月25日（10日間）
- (2) 実習内容
 - ・観察、参加実習を通して、保育者に準ずる立場で実践的に学び、実習日誌に記録する。
 - ・実習園の指導のもと、幼児の「前に立つ」ことを体験し省察する。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・マナーを守り、意欲的に取り組む。
 - ・礼儀正しく、謙虚な姿勢で学ぶ。
 - ・自分から進んで質問をし、実践的な学びを深める。
2. 知識および技能
 - ・幼児の「前に立つ」ための準備をして実習に臨む。
 - ・3歳児から5歳児の発達を理解し実習に臨む。
3. 実習日誌
 - ・各年齢の発達の特徴や保育の流れやつながりを理解して時系列に記録ができる。
 - ・幼児に対する保育者の働きかけを具体的に記録できる。
 - ・幼児の姿を観察し、場面の記録を書くことができる。
 - ・「気づき」を書くことができる。
4. 指導案
※教育実習 I では、記録に重点を置き、指導案は教育実習 II の課題とする。
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、自主的に進められる。

履修上の注意

- (1) 教育実習 I を実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
- (2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する。
 - ②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める。
 - ③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める。
- (2) 復習
 - ①実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める。

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）および実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

教育実習Ⅱ（幼稚園）

～幼稚園教諭として必要な能力・技術について学ぶ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	必修	-	-	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

教育実習Ⅰでの経験を基礎として、観察や指導案に基づいた実践を行う。幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、「個」と「集団」の理解、幼稚園教諭の職務に対する理解等がさらに深まるよう指導する。また、指導案を作成し実践的な体験を通して学べるよう指導する。

授業計画

- (1) 実習期間
2023年6月5日～6月16日（10日間）
- (2) 実習内容
参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い、実践的に学ぶ。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む
 - ・「今日の課題」を考察し、「明日の課題」を明確にしながら学びを積み上げようとする
 - ・「個」と「集団」に積極的に関わり、観察し学びを深める
2. 知識および技能
 - ・保育におけるPDCAサイクルを理解する
 - ・ピアノや絵本の読み聞かせなど、保育技術を磨いて実習に臨み、実践の場においてさらなる向上を目指す
 - ・幼児の言動から心情を感じ取りながら、関わることができる
3. 実習日誌
 - ・保育者の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・「個」と「集団」の姿を記録できる
 - ・幼児との関わりを詳細に記録し、省察することができる。
4. 指導案
 - ・子どもの姿を予測し、配慮事項や留意点を挙げるができる
 - ・導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を確認し、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 教育実習Ⅱを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④「教育実習指導（事前事後）（幼稚園）」の到達目標に達していること
- (2) 教育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
教育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ①実習先事前訪問にもとづいて、実習園の概要を理解する
 - ②教育実習事前指導を受講し、実習の目標を定める
 - ③実習中は次の日の実習課題を明確にするとともに、教材準備等に努める
- (2) 復習
実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

実習園による評価（評価観点：実習態度・幼稚園理解・幼児理解）及び実習日誌を、総合して評価をする。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

教育実習指導(事前事後)(小学校) ～実り多い実習を実現して今後へ生かす～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年・2年	後期・前期	1	選択	-	必修	-

担当教員
長沼 秀明

授業概要

事前指導においては、各自が、小学校教育の役割と教育実習の意義・目的を理解し、実習への心構えを整えられるように指導する。

事後指導においては、実習で学んだことを整理するとともに、今後の実践的指導力を培うために自らの課題を明確にできるよう指導する。

授業計画

第1回	【事前指導】ガイダンス、小学校における教育実習の意義・目的、教育実習の概要
第2回	教育実習上の諸注意 オリエンテーションへの参加 心構え
第3回	児童と学校生活 (1) 学校の現状・諸問題と対応
第4回	児童と学校生活 (2) 児童の諸問題と対応
第5回	教師の服務 (1) 学校目標、学年・学級の指導目標、校務分掌、教育環境、学期・月・週・日程および教師の仕事の流れ、カリキュラムと時間割
第6回	教師の服務 (2) 教科指導とその他の指導、学級運営、地域・保護者との連携・対応
第7回	指導の実際 (1) 実習生としての児童への接し方、言葉遣い・態度
第8回	指導の実際 (2) 場面指導の具体例
第9回	指導の実際 (3) 学習指導の実践事例—授業設計と教材研究—
第10回	指導の実際 (4) 学習指導の実践事例—授業設計と指導案の書き方—
第11回	指導の実際 (5) 学習指導の実践事例—授業実践—
第12回	指導の実際 (6) 学習指導の実践事例—授業評価—
第13回	教育実習参加についてのまとめ—教師としての抱負をもつ—、実習日誌の書き方
第14回	【事後指導】(1) 実習の報告・反省
第15回	(2) 実習のまとめ、各自の今後の課題
※1年間にわたる科目のため、実際には 20 回程度の授業回数となる予定。	

到達目標

事前指導を通じて、自信を持って教育実習へ臨むことができるよう十分な力を身につけること。また、事後指導を通じて、実習で学んだ成果を今後の教育実践に役立てられるよう万全の準備をすることができるようになること。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と配布資料、教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果(模擬授業を含む) 100%

使用教科書名

- ・教科書名：『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』
- ・著者名：文部科学省
- ・出版社名：東洋館
- ・出版年：平成30年
- ・教科書名：『小学校教育実習ガイド(第2版)』
- ・著者名：石橋裕子・梅澤実・林幸範編著
- ・出版社名：萌文書林
- ・出版年：2019年

教育実習 I (小学校) ～より良い教師になるということ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
1年	-	2	選択		必修		こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

- ・小学校における教科、特別の教科「道徳」、および特別活動について、その指導法を観察し、大学での講義と関連付けて理解を深める。
- ・児童について、各学年の相違を知・徳・体それぞれの発達面を勘案して学ぶ。
- ・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第2回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第3回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介
第4回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第5回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習。
第6回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第7回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第8回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第9回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第10回	クラス活動への参加。他のクラスの観察。
第11回	クラス活動への参加。教科等指導。
第12回	クラス活動への参加。教科等指導。
第13回	クラス活動への参加。教科等指導。
第14回	クラス活動への参加。教科等指導。
第15回	教育実習反省会。教育実習Ⅱへの課題と準備の確認。

到達目標

教科、特別の教科「道徳」、特別活動について、実際にどういった授業がなされているか理解し、自ら授業案を作成できるよう課題を持つ。
教師の任務役割について理解し、自らが教育を行うことについて明確化する。

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。
また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

予習・復習

- ・予習：授業等の準備
- ・復習：実習日誌の作成

使用教科書名

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド(第2版)』(事前指導で使用)
学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの
教育実習日誌(小学校)

教育実習Ⅱ(小学校)

～より良い教師になるということ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	-	必修	-	こども学科専任教員

授業概要

- ・小学校における教科指導や特別活動等を観察し、多様な指導内容や方法について理解する。
- ・児童の身体的・知的・社会的発達の特徴を知り、学校での生活のリズムを捉える。
- ・授業設計や指導案作成、授業実践等を実施することにより、児童の発達に合わせた指導内容や指導法を学ぶ。
- ・実習校の学校目標・沿革・児童数・地域・施設設備等の特徴を把握し、学校運営における教師の任務や役割等について理解を深める。

授業計画

第1回	オリエンテーション(1) 実習に参加の挨拶と学校説明を受ける。
第2回	オリエンテーション(2) 配属クラスの授業進捗状況と実習前準備について
第3回	実習初日のオリエンテーション、校長からの訓話、自己紹介。
第4回	クラス活動に参加し、観察を中心とした実習
第5回	朝礼での全校生徒を前にした自己紹介。クラス活動に参加し、観察を中心とした実習
第6回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第7回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第8回	クラス活動への参加。他のクラスの観察
第9回	クラス活動への参加。教科等指導
第10回	クラス活動への参加。教科等指導
第11回	クラス活動への参加。教科等指導
第12回	クラス活動への参加。研究授業。
第13回	クラス活動への参加。教科等指導
第14回	クラス活動への参加。お別れ会など
第15回	教育実習反省会。教師になるということについて再認識。

到達目標

教科教育、道徳教育、特別活動、総合的学習の時間、外国語の活動を通じて、小学校教育が道関連させて計画が立てられているか理解する。

実際に、学習指導案の作成ができるようになり、クラス運営ができるようになる。

履修上の注意

実習は全出席するものであり、遅刻、早退は許されない。

また、社会通念から逸脱した行為があれば、実習の中止となる。

予習・復習

- ・予習：授業等の準備
- ・復習：実習日誌の作成

使用教科書名

石橋裕子・梅澤実・林幸範編著『小学校教育実習ガイド(第2版)』(事前指導で使用)

学習指導要領解説など大学で使用したもの及び実習先で指定のもの

教育実習日誌(小学校)

保育実習指導Ⅲ・Ⅳ(事前事後) ～有意義な実習を行うために～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	選択	-	-	必修

担当教員
井上・佐藤・宮澤・ 岩崎・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅲ(保育所)・Ⅳ(施設)の意義、目的、方法などを学ぶとともに、保育実習Ⅰ(保育所)・Ⅱ(施設)において明確になった課題について、さらに学びを深められるよう実習事前指導を行う。また、子どもや利用者、保育士の役割と職務内容について理解を深め、保育士としての専門性や実践的知識を高めるため、責任実習の実施に向けた指導を行う。

事後指導では、実習先の講評や実習日誌、自己評価、実習反省会等を通して、実習のまとめと振り返りを行い、保育士としての新たな目標、自己の課題が明確になるよう指導する。

授業計画

	保育実習Ⅲ(保育所)	保育実習Ⅳ(施設)
	【事前指導】	
第1回	実習事前事後指導の流れについて	実習事前事後指導の流れについて
第2回	保育実習Ⅲ(保育所)の目的と意義	保育実習Ⅳ(施設)の目的と意義
第3回	実習先事前訪問について	実習先事前訪問について
第4回	課題を明確にして保育実習に取り組むために	課題を明確にして保育実習に取り組むために
第5回	実習日誌とその活用(1)	実習日誌とその活用(1)
第6回	実習日誌とその活用(2)	実習日誌とその活用(2)
第7回	指導案の作成(1)	施設の役割と現状
第8回	指導案の作成(2)	実習課題と実習日誌の書き方(1)
第9回	模擬保育(1)	実習課題と実習日誌の書き方(2)
第10回	模擬保育(2)	指導案の作成
第11回	模擬保育(3)	模擬保育
第12回	実習における諸注意と事前の自己チェック	実習における諸注意と事前の自己チェック
	【事後指導】	
第13回	実習の総括と自己評価① レポート作成	実習の総括と自己評価① レポート作成
第14回	実習の総括と自己評価② グループワーク	実習の総括と自己評価② グループワーク
第15回	実習の総括と自己評価③ 全体報告	実習の総括と自己評価③ 全体報告

到達目標

- ・園や施設の方針を理解したうえで、保育者の関わりを基に適切に行動できるようになり実習に臨む。
- ・生活・遊びを促すための教材研究や援助の仕方を理解して実習に臨む。
- ・記録のとり方・記入の仕方を理解して実習に臨む。
- ・指導案を書く意味を理解し、指導案を保育実習につなげることができる。
- ・期日を守り提出物や実習の手続きを計画的に進められる。
- ・保育実習Ⅲ・Ⅳを振り返り、今後の課題を明確にできる。

履修上の注意

- ・事前指導は、欠席が2割を超えた場合、実習を実施できない。
- ・川口短期大学「実習のてびき」と教科書は毎回持参すること。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 次回の授業内容を確認し、持ち物や提出物を整える。
 - ② 実習先事前訪問にもとづき、自己の課題を明確にして実習に臨む。
- (2) 復習
 - ① 課題を完成させ、期日内に提出できるように計画的に準備を進める。
 - ② 実習終了後には、実習成果報告会に向けて実習における自己の学びをまとめる。

評価方法

授業態度、課題の内容とその提出状況等により、総合的に評価する。

使用教科書名

厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館) 最新版/Ⅲ:小櫃智子他編著『実習日誌・実習指導案 パーフェクトガイド』、Ⅳ:守巧他著『施設実習パーフェクトガイド』(わかば社)

保育実習Ⅲ(保育所)

～保育所理解および保育理解を深める～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年		2	選択	-	-	選択必修

担当教員
こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅰ(保育所)の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育課程を把握し、保育士の職務をより深く理解できるように指導する。また、修得した全教科の知識と技能を基礎として、総合的に実践する応用力を身に付けられるように指導する

授業計画

- (1) 実習期間と実習時間
2022年8月・9月の間の2週間、90時間の実習を行う(実習園によって日程が異なります)。
- (2) 実習内容
実習園の指導のもと参加実習、指導実習(部分実習および責任実習)を行い、省察する。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・園や施設の方針を理解したうえで、適切に行動できる
 - ・目標を明確にし、向上心をもって実践的な学びを積み上げることができる
2. 知識および技能
 - ・保育内容にふさわしい教材準備や環境構成ができる
 - ・生活・遊びを促すための援助ができる
3. 実習日誌
 - ・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
 - ・子どもの姿を場面で捉え、そこから「乳幼児理解」につなげていくことができる。
4. 指導案
 - ・指導案を書く意味が分かり、指導案を保育実践につなげることができる
 - ・全日実習指導案の作成から実践につなげる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅲを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「保育実習指導(事前事後)Ⅲ」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④保育実習指導Ⅲ(事前事後)の到達目標に達していること
- (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。
保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 実習先事前訪問にもとづき、保育園の概要理解に努める
 - ② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
 - ③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
- (2) 復習 実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

実習園による評価(実習態度、保育所理解、幼児理解等)および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

保育実習Ⅳ(施設)

～児童福祉施設への理解を深め、実践力を高める～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格			担当教員
				幼稚園	小学校	保育士	
2年	-	2	選択	-	-	選択必修	こども学科専任教員

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

保育実習Ⅱ(施設)の学びをふまえ、児童福祉施設(保育所を除く)、その他社会福祉施設における実践を通して、施設における子ども・利用者の生活を理解するとともに、保育士として必要な支援技術の向上を目指し指導する。

授業計画

- (1) 実習期間実習時間
2022年8月・9月の間の2週間、90時間の実習を行う(実習施設により異なります)。
- (2) 実習内容
観察・参加実習を中心とするが、施設の指導をもとに部分実習も行う。

到達目標

1. 実習生の姿勢・態度
 - ・施設の方針を理解したうえで、保育者と子ども・利用者とのかかわり方を学び、適切に行動できる
 - ・保育者として学んだことを主体的に果たすことができる
2. 知識および技能
 - ・信頼関係を築くための技能を身につける
 - ・施設の役割と社会的な位置づけを知る
 - ・施設の現状(生活、職員の役割)を理解する
3. 実習日誌
 - ・子どもや利用者とのかかわりから保育者の意図を感じ取り、「学び」や「気づき」を書くことができる
 - ・「個」と「集団」の姿を記録できる
 - ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。
4. 指導案
 - ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる
5. 手続きと提出物
 - ・期日を守り、計画的に進められる

履修上の注意

- (1) 保育実習Ⅳを実施するためには、原則として以下のすべての条件を満たすことが必要である。
 - ①実習派遣条件科目の単位を修得していること
 - ②「保育実習指導(事前事後)Ⅳ」の授業に原則全出席していること
 - ③すべての書類の提出及び手続きを所定の期日までに完了していること
 - ④保育実習指導Ⅳ(事前事後)の到達目標に達していること
- (2) 保育実習日程を守り、実習を実施することが必要である。

保育実習期間中の欠席は、原則として認められない。認められた場合でも、実習の延長が必要である。

予習・復習

- (1) 予習
 - ① 実習先事前訪問にもとづき、施設の概要理解に努める
 - ② 保育実習事前指導を受講し、実習の目標を定め、実習日誌に記載する
 - ③ 実習中は、次の日の実習目標をたて、教材準備等に努める
- (2) 復習 実習中は毎日、実習日誌の記入を通して、実習の振り返りに努める

評価方法

施設による評価(実習態度、施設理解、施設保育士の職務理解等)および実習日誌の評価を総合して行う。実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。

使用教科書名

なし

保育・教職実践演習(幼・小)

～これまでの学びをふりかえる～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	後期	2	選択	必修	必修	必修

担当教員
細渕・大橋・野口・長沼・ 関根・佐々木・岩崎・小林

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

入学から2年前期までに学んできた教員および保育士になるために必要な知識・技能について習得できているかを整理し、学びの確認を行う。資格取得関連項目について、何をどう学んだか履修評価表(かわたんシート)を通じて確認し、小学校教育、幼稚園教育、保育所および福祉施設それぞれについて、分野ごとに子ども理解、学級経営、内容の指導法に関するグループディスカッションなどを行っていく。

また、外部講師の講義を通して、広い視野に立って教育・福祉について指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	全体講義①外部講師の講義(先輩から学ぶ保育・教育の現場)
第3回	全体講義②外部講師の講義(幼稚園で働くということ)
第4回	全体講義③外部講師の講義(保育所で働くということ)
第5回	全体講義④外部講師の講義(小学校で働くということ)
第6回	全体講義⑤外部講師の講義(児童福祉で働くということ)
第7回	全体講義⑥ふりかえり
第8回	クラス別演習①
第9回	クラス別演習②
第10回	クラス別演習③
第11回	クラス別演習④
第12回	クラス別演習⑤
第13回	クラス別演習⑥
第14回	全体報告会
第15回	まとめ

到達目標

これまで大学で学んできた講義内容、実習での活動について、履修評価表(かわたんシート)を通して全体の関係性を理解する。また、自己の学修と他者の学修を、グループディスカッションを通して比較し、教育・福祉の多様性を理解する。

履修上の注意

原則として、すべての回の出席を求める。やむを得ない欠席については、届け出ること。後半は50名程度のクラスを編成し、クラス別の授業を行う。履修クラスはガイダンスで提示する。

予習・復習

- ・予習：日頃から、図書館に赴くなどして、教育・保育・福祉に関する書物に目を通しておく。
- ・復習：講義や授業で学んだことをノートにまとめておき、随時確認する。

評価方法

期末レポート 70%	授業内レポート 20%	受講態度 10%
------------	-------------	----------

使用教科書名

教科書は使用しない。

保育・教育学演習Ⅱ ～教育者に求められる国語活動の実践～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
大橋 修一

授業概要

プレゼンテーションや、読んだり書いたり話したりといった言語活動を主に指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	グループ作業① 課題設定
第3回	グループ作業② 調査・研究
第4回	グループ作業③ 調査・研究
第5回	グループ作業④ 発表と討論
第6回	グループ作業⑤ 発表と討論
第7回	まとめ1
第8回	個人作業の準備
第9回	個人作業① 課題設定
第10回	個人作業② 調査・研究
第11回	個人作業③ 調査・研究
第12回	個人作業④ 発表と討論
第13回	個人作業⑤ 発表と討論
第14回	個人作業⑥ 発表と討論
第15回	まとめ2

到達目標

教育現場で必要とされる、国語に関する全般的な知識を身につける。課題をこなす過程で、資料の調べ方や発表の仕方を学ぶことに加え、グループワークを通じて企画力、計画力、協調性なども身につける。

履修上の注意

グループ活動が主となるため、他人に迷惑をかける行いは慎むこと。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

- ・予習：日頃から興味のある事柄に対し、分析し、発表できるように備えておく。
- ・復習：調査・発表・討議を通して学んだことを各自検討する。

評価方法

授業での発表や課題 70%	レポート 20%	受講態度 10%
---------------	----------	----------

使用教科書名

必要に応じてプリントを配布する。

保育・教育学演習Ⅱ ～民衆の教育経験を考える（教育学、歴史学）～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
野口 周一

授業概要

「民衆の教育経験」とは、人々が教育をどのように受けたのか、また教育を受けたことがその後の人生にどのような影響を与えたのか、とうことを考えるために用いた言葉として使用する（大門正克氏）。『二十四の瞳』では戦前・戦中の子どもたちに焦点をあて、戦争と学校体験の視点から指導する。

授業計画

第1回	『二十四の瞳』を読む	(1) 教育勅語とは何か。
第2回	同上	(2) 御真影とは何か。
第3回	同上	(3) 国定教科書とは何か。
第4回	同上	(4) 忠君愛国とは何か。
第5回	同上	(5) 子どもの悲しみとは何か、児童ろうどうについて。
第6回	同上	(6) 子どもの悲しみとは何か、女に生まれたことについて。
第7回	同上	(7) 大石先生の悲しみとは何か、わが子を喪うことについて
第8回	同上	(8) 大石先生の悲しみとは何か、教え子を喪うことについて。
第9回	「民衆の教育経験」を考える (1) 就学と進路をめぐる動向	
第10回	同上	(2) 国家と学校の望む子ども像
第11回	同上	(3) 村の子ども像の輪郭
第12回	同上	(4) 都市の子ども像の輪郭
第13回	同上	(5) 教育の社会的機能
第14回	同上	(6) 戦時下の少国民
第15回	同上	(7) 学童疎開

到達目標

「民衆の教育思想」について、具体例をあげて説明できること。

履修上の注意

戦前・戦中の子どもたちの思いを追体験すること。
遅刻した場合は、遅刻分の課題を課す。

予習・復習

- ・予習：講義資料を事前に配布するので、それを読み込むこと。
- ・復習：検討すべき課題を指示する。

評価方法

授業への取り組み姿勢：100%

使用教科書名

保育・教育学演習Ⅱ ～絵本や紙芝居を読む・手作り作品を作る～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
木谷 安憲

授業概要

絵本を読み、絵本に対する理解を深める。絵本と紙芝居を比較することで、それぞれの良さを知る。手作り絵本や紙芝居を制作し、実習に持っていき園児達の前で読む。演習を通して、絵本や紙芝居が保育にはたす役割について理解を深められるよう指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス 授業の概要とスケジュール
第2回	好きな絵本を紹介する
第3回	紙芝居と絵本の違いを知る
第4回	紙芝居と絵本の分析する
第5回	園で読まれる絵本について調べる
第6回	共同制作 大きな絵
第7回	かんたんな絵本の制作の仕方を学ぶ
第8回	絵本の制作 アイディアを出す
第9回	絵本の共同制作
第10回	校外授業
第11回	校外授業
第12回	立体作品の制作
第13回	立体作品の制作
第14回	立体作品の制作 完成
第15回	まとめ・振り返り

到達目標

幼稚園でどのような絵本が読まれているか知る。
自分のオリジナル作品を完成させる。
その作品を実習で読み聞かせ、園児の反応を知る。

履修上の注意

絵本や紙芝居に興味がある。
絵の得意不得意は関係ないが、絵を描くことが好きな人。
30分を超えた遅刻は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席とする

予習・復習

- ・予習：できるだけ多くの絵本を読む。
- ・復習：下描きなど事前準備が必要な場合は指示をする。

評価方法

提出作品(70%) 発表・授業態度(30%)

使用教科書名

使用せず。適宜プリントを配布する。

保育・教育学演習Ⅱ ～実践的検討を通して～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
小山内弘和

授業概要

身体、身体活動」の視点からテーマを選定し、検討、実践、まとめを行っていく。特に、運動遊びを作成、発表する事を中心に進めていく。運動の実践について学習していくよう指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	課題検討：資料作成①
第3回	課題検討：資料作成②
第4回	実践①
第5回	実践②
第6回	実践③
第7回	課題検討：資料検討①
第8回	課題検討：資料検討②
第9回	発表シミュレーション①
第10回	発表シミュレーション②
第11回	最終発表①
第12回	最終発表②
第13回	最終発表③
第14回	最終検討
第15回	まとめ

到達目標

「身体、身体活動」に注目して、課題の追求のために、グループで協力して実践的に学習していく。テーマの選定と実践を通して、身体活動についての視点や思考するための基礎を獲得する。

履修上の注意

全ての内容において、多くの準備を必要とする。それらに対しては積極的な姿勢で取り組むこと。また、「一生懸命」であること。

- ・実践を行う際は、それに適した服装をすること。
- ・遅刻は3回で1回の欠席とする。

予習・復習

- ・授業内での内容以外にシミュレーションや分析を必要とする。
- ・予習：授業前には机上での活動のみならず、様々な側面から内容を十分に理解してくるようにする。
- ・復習：行ったことを、再度検討し次への課題を発見する。

評価方法

授業への貢献度及び授業態度	60%	提出物や発表	40%
---------------	-----	--------	-----

使用教科書名

なし（適宜、プリント等を配布）

保育・教育学演習Ⅱ ～文学作品を通じて教育と社会を考察する～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
長沼 秀明

授業概要

1年次の成果を十分にふまえて、各自の問題意識を文学作品の講読・分析を通じて、さらに学問的に深めていけるよう指導します。具体的には、各自が追究すべき課題および作品を設定し、授業を通じて分析・考察をすすめます。

作品の講読を通じて、各自が保育・教育学に関する諸問題を発見・分析し、皆で討議することを通じて、各自が保育者・教育者として必要な社会認識の能力を養うことができるよう指導します。

授業計画

第1回	はじめに（履修上の注意および授業の位置づけなど）
第2回	課題の設定および作品の選定（その1）
第3回	課題の設定および作品の選定（その2）
第4回	課題の設定および作品の選定（その3）
第5回	作品の講読・分析（その1）
第6回	作品の講読・分析（その2）
第7回	作品の講読・分析（その3）
第8回	作品の講読・分析（その4）
第9回	作品の講読・分析（その5）
第10回	作品の講読・分析（その6）
第11回	論文の作成（その1）
第12回	論文の作成（その2）
第13回	論文の作成（その3）
第14回	論文の作成（その4）
第15回	まとめ

到達目標

文学作品の講読を通じて、保育者・教育者として必要な社会認識の能力を養うことができるようになること。

履修上の注意

毎回、積極的に課題に取り組み、発言して、授業に大いに貢献してください。学生諸君同士、お互いに、大いに学びあってください。

遅刻2回を欠席1回に換算するので、くれぐれも遅刻しないこと。

予習・復習

- ・予習：授業内容に関する教科書の該当部分を事前に読んできてください。
- ・復習：授業で扱われた内容を教科書であらためて確認しておいてください。

評価方法

授業の成果 70% 学期末レポート 30%

使用教科書名

- ・教科書名：『クオレ』（21世紀版 少年少女世界文学館 22）
- ・著者名：エドモンド・デ・アミーチス著、矢崎源九郎訳
- ・出版社名：講談社
- ・出版年：2011年

保育・教育学演習Ⅱ ～保育学～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
関根 久美

授業概要

保育者として、子どもが「楽しい」と感じることができる、児童文化財の作成、その実践について研究する。また、実際のパフォーマンスから「子どもの感性」について考察する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	エプロンシアターの振り返り①
第3回	エプロンシアターの振り返り②
第4回	人形劇などのパフォーマンス観覧
第5回	人形劇などのパフォーマンスの振り返り
第6回	エプロンシアター発表①
第7回	エプロンシアター発表②
第8回	エプロンシアター発表の振り返り
第9回	児童文化財作成①
第10回	児童文化財作成②
第11回	児童文化財実践①
第12回	児童文化財実践②
第13回	保育現場における行事についての研究①
第14回	保育現場における行事についての研究②
第15回	これまでの授業のまとめ

到達目標

保育・教職実践演習Ⅰにおいて作成したエプロンシアターを保育園において、子どもの発達や興味・関心、環境に見合った実践をする。

様々な児童文化財を子どもたちが楽しめるよう、工夫して作成し、実践する。

履修上の注意

自ら課題を見つけ、積極的に授業に取り組む。

遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

予習・復習

・予習：子どもの発達に合った児童文化財について事前学習する。

・復習：実践後には、各自で反省をし、自分の課題を見出す。

評価方法

作品評価、実践（発表）における評価など、総合的に評価する。

使用教科書名

特になし（随時プリント等を用意する）

保育・教育学演習Ⅱ（音楽教育実践学）～管・打楽器を中心とした音楽表現活動に関する研究及び演習～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
齊藤 淳子

授業概要

発表会・ミニコンサート等の企画・運営を行うことで、保育・教育現場における発表会等の企画・運営のための実践力を養う。また、研究テーマに関する楽曲分析や演習等を通して、研究を深めるための方法を学ぶ。

授業計画

第1回	ガイダンス，研究計画	管・打楽器奏法の習得①
第2回	探求・研究活動①	〃 ②
第3回	探求・研究活動②	〃 ③
第4回	探求・研究活動③	〃 ④
第5回	探求・研究活動④	〃 ⑤
第6回	探求・研究活動⑤	〃 ⑥
第7回	コンサートの企画・立案	〃 ⑦
第8回	探求・研究活動⑥	〃 ⑧
第9回	探求・研究活動⑦	〃 ⑨
第10回	探求・研究活動⑧	〃 ⑩
第11回	探求・研究活動⑨	〃 ⑪
第12回	探求・研究活動⑩	〃 ⑫
第13回	探求・研究活動⑪	〃 ⑬
第14回	リハーサル	〃 ⑭
第15回	ミニコンサート	

到達目標

- ・管・打楽器，鍵盤楽器等によるアンサンブル力の向上
- ・ステージ発表におけるパフォーマンス力の向上
- ・ステージ発表に向けた企画・運営のための実践力の向上

履修上の注意

- ・オープンキャンパスでのミニコンサートや学園祭での発表等，授業外での活動にも必ず参加すること。
- ・学園祭が行われる10月までは練習を行うので，必ず参加すること。
- ・遅刻3回で1欠席扱いとします。

予習・復習

楽器の演奏技能の向上には個人練習は必須である。基礎練習を含め，曲練習をして授業に臨むこと。また，発表に向けての準備も行うこと。

評価方法

学習態度・練習状況（70%）	発表・課題提出等（30%）
----------------	---------------

使用教科書名

適宜，資料を配布する。
譜面入れ等を準備すること。

保育・教育学演習Ⅱ ～生活者としての子ども～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
三沢 徳枝

授業概要

子どもの生活や子どもをめぐる問題からテーマを設定し、様々な取り組みや活動について講義する。保育や教育の実践現場での対応を考えられるように指導する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	研究の進め方と研究計画の立案
第3回	レポートの書き方と発表の仕方
第4回	研究テーマの検討①
第5回	研究テーマの検討②
第6回	調査研究 子どもの貧困
第7回	調査研究 子どもとお金
第8回	調査研究 子どもへの食支援
第9回	教材の作成①
第10回	教材の作成②
第11回	教材の作成③
第12回	教材の作成④
第13回	教材の作成⑤
第14回	実践の振り返りと発表
第15回	学習活動のまとめ

到達目標

子どもの生活や子どもの問題を見出して、検討し対処する方法を考えることができる。レポートや教材の作成を通して、保育者や教育者として課題をもって向き合う態度を持つことができる。

履修上の注意

授業開始30分以内までを遅刻とする。授業で使う材料や道具は事前に各自が用意する。

予習・復習

- ・予習：各自の課題とグループ活動での役割に応じた準備をする
- ・復習：ポートフォリオを作成して学習活動を振り返る

評価方法

製作物、レポート 80%	発表 20%
--------------	--------

使用教科書名

授業時に配布する資料を使う

保育・教育学演習Ⅱ（児童文学）～絵本や昔話について専門的に学ぶ～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
佐々木美和

授業概要

児童文学や児童文化を研究領域に、ゼミ生一人ひとりが自ら選んだテーマに沿って学びを深められるように指導する。

保育・教育学演習Ⅰでの学びを発展させ、受講生個人が選んだ研究テーマについて調査や分析を進める。発表やグループ討議を経て、一人ひとりの考察を深め、全員でその成果をまとめる。

この一連の研究活動を通して、児童文学や児童文化全般に対する知識が増え、理解が深まっていけるよう、個別に指導を行う。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	個人・グループ研究活動① 追加の文献調査や資料収集・整理
第3回	個人・グループ研究活動② 追加の文献調査や資料収集・整理
第4回	個人・グループ研究活動③ プレ発表会と質疑応答
第5回	個人・グループ研究活動④ 追加の調査と分析
第6回	個人・グループ研究活動⑤ 追加の調査と分析
第7回	個人・グループ研究活動⑥ 中間発表会への準備
第8回	個人・グループ研究活動⑦ 中間発表会への準備
第9回	個人・グループ研究活動⑧ 中間発表会への準備
第10回	中間発表会と意見交換会
第11回	個人研究活動① 課題のまとめ/最終発表会への準備
第12回	個人研究活動② 課題のまとめ/最終発表会への準備
第13回	個人研究活動③ 課題のまとめ/最終発表会への準備
第14回	個人研究活動④ 課題のまとめ/最終発表会への準備
第15回	最終発表会

到達目標

- ・教育者や保育者に求められる児童文学・児童文化に関する知識と理論を学び、それを現場で生かす実践力を身につける。
- ・収集した資料や文献をもとに考察を深め、自分の見解を客観的かつ具体的に他者へ伝える能力（発表力や説明力）を身につける。
- ・グループワークを通して討議の意義を理解し、他者の意見から学ぶ姿勢を身につける。

履修上の注意

- ・演習（ゼミナール）授業なので、積極的に自分の考えや意見を述べ発表すること。
- ・遅刻は3回で1回の欠席とみなす。
- ・受講生の研究テーマに関連する施設や展覧会等の訪問見学を実施する可能性がある。
- ・Teamsのクラス資料に、教材などを送信するので、必ず事前に確認しておくこと。

予習・復習

- ・予習：配布資料の読み込む、文献収集、発表準備など（毎回授業時に指示する）
- ・復習：実演や発表の準備、発表後の討議や資料の整理（毎回授業時に指示する）

評価方法

発表内容（50%）	提出物（50%）
-----------	----------

使用教科書名

教科書は使用しない。
必要に応じて資料やレジュメを配布する。

保育・教育学演習Ⅱ（教育学・子ども家庭福祉論）

～地域と子ども・子育て～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
佐藤 晃子

授業概要

「地域と子ども・子育て」というテーマのもとに、受講生自らの問題関心に沿って、グループで調査研究を進め、成果発表を行う。調査研究は、子どもや保護者、保育者・支援者等へのインタビューや、子育て支援活動や団体・施設等へのフィールドワークなど実地調査を行うことを基本とし、指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	調査研究の進め方①資料収集、文献研究の方法について
第3回	調査研究の進め方②主にインタビューやフィールドワークの方法・技法について
第4回	各自の研究関心についてのグループディスカッション
第5回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討①
第6回	各自の研究関心に関連する文献・資料の検討②
第7回	各自の研究テーマ・調査対象の発表とグループ編成
第8回	各グループの研究テーマの発表と具体的な研究スケジュールの作成（グループ活動）
第9回	調査準備①（グループ活動）
第10回	調査準備②（グループ活動）
第11回	調査の実施（グループ活動、学外活動）
第12回	調査・研究のまとめ①（全体での振り返り、共有）
第13回	調査・研究のまとめ②（グループ活動）
第14回	調査・研究のまとめとグループ発表の準備
第15回	グループ報告会／まとめ

到達目標

- 1) 地域と子ども・子育てに関する諸課題について研究的姿勢を持って探究し、論理的思考やプレゼンテーション能力を身につける。
- 2) 保育者としての立場から、地域の子ども・子育て及びその支援の実態を考察し、自らの子ども・保育観、保育者としてのあり方について捉え直す。
- 3) 自分の役割を見つけ、能動的にグループ活動に参加し協働して取り組むことができる。

履修上の注意

- ・ 遅刻3回で欠席1回とする。
- ・ 学外での活動を予定しているが、実施回・日については未定である。また、社会状況により中止や他の方法への変更もありうる。

予習・復習

授業時間外に、個人またはグループでの課題や活動の準備を行うことが求められる。

評価方法

受講態度（参加度含む）	50%	課題レポート及び発表	50%
-------------	-----	------------	-----

使用教科書名

特になし。授業内に適宜紹介する。

保育・教育学演習Ⅱ（音楽教育学）～子どものための音楽表現活動の探究～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
宮澤多英子

授業概要

歌唱とピアノ演奏を中心として、音楽あそびや音楽科授業に関する探究活動や音楽表現活動を指導する。

保育現場での演奏発表では、「保育・教育学演習Ⅰ」における演奏発表の経験を生かし、子どもが音や音楽を楽しむことができるコンサートを目指し、主体的・協働的に企画・発表を行う。また、保育者へのアンケート調査を実施・分析し、振り返りまで行うことにより、音楽発表の運営能力を高める。

その他にも、音楽と造形や身体動作などの他媒体とを関わらせた総合的な表現として音楽づくりやオペレッタに取り組む。また、大学祭での演奏発表に向けた合唱にも取り組み、保育者・教育者としての音や音楽に対する豊かな感性や創造的な表現力を育成する。

授業計画

第1回	オリエンテーション、保育現場での演奏発表（コンサート）の企画	
第2回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）①練習	
第3回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）②練習	
第4回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）③練習	
第5回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）④練習	
第6回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）⑤練習	
第7回	合唱・合奏（ミュージックベル・トーンチャイムなど）⑥リハーサル	
第8回	【保育現場での演奏発表】	
第9回	総合的な表現活動①音楽・造形・身体動作のつながり	
第10回	総合的な表現活動②イメージを総合的に表現しよう	
第11回	総合的な表現活動（オペレッタ）③	合唱①
第12回	総合的な表現活動（オペレッタ）④	合唱②
第13回	総合的な表現活動（オペレッタ）⑤	合唱③
第14回	総合的な表現活動（オペレッタ）⑥	合唱④
第15回	【オペレッタ・合唱の発表】	

到達目標

- ・保育現場におけるコンサートを計画し、主体的・協働的に音楽活動に取り組むことができる。
- ・音や音楽を楽しみながら、楽曲にふさわしい表現を工夫して歌唱や楽器演奏をすることができる。
- ・音楽と造形、身体動作などの関わりによる総合的な表現に興味・関心をもち、イメージを総合的に表現したり、それぞれのつながりを意識して歌ったりすることができる。

履修上の注意

- ・遅刻は3回で1回欠席とする。授業開始後20分以降は欠席扱いとする。
- ・保育現場での演奏発表は、準備・リハーサル・本番の出席を必修とする。

予習・復習

- ・予習：楽譜が配布された楽曲については全て、事前に譜読みをして練習しておく。
- ・復習：授業で演奏した部分について、確実に演奏できるように反復練習をする。

評価方法

活動に取り組む姿勢・態度 50%	実技発表 30%（オペレッタ 20%・合唱 10%）	課題 20%
------------------	----------------------------	--------

使用教科書名

- 「保育・教育学演習Ⅰ」に引き続き以下のテキストを使用する。
- ・教科書名：『保育者養成のための創作表現活動—音楽・造形・身体動作のつながり—』
 - ・著者名：宮澤多英子
 - ・出版社名：株式会社 外為印刷
 - ・出版年：2021年

保育・教育学演習Ⅱ ～臨床保育学演習～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
岩崎 桂子

授業概要

保育・教育学演習Ⅰに続き、保育方法を学び保育の技術・知識を増やしていく。また、就職に向けて各自の保育観に合った就職先の選定を行うための材料とし、指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	実習先での保育方法を学ぶ
第3回	実習先での保育方法を考察する
第4回	実習先での保育方法について発表①
第5回	実習先での保育方法について発表②考察
第6回	教材研究
第7回	教材作成-パネルシアター
第8回	主活動での実践計画を立てる①調べ学習
第9回	主活動での実践計画を立てる②活動計画を立てる
第10回	主活動での実践計画を立てる③発表 前半
第11回	主活動での実践計画を立てる④発表 後半
第12回	模擬保育振り返り
第13回	教材制作-ペープサート・スケッチブックシアター
第14回	教材発表
第15回	まとめ

到達目標

- ・様々な保育について学び、各自の保育観を確立する。
- ・就職に向けて各自の強みを身につける。

履修上の注意

自分の課題に積極的に取り組むこと。学外での学習を行う予定であるため授業時間外での学習が必要になる。学生の状況により、授業内容が変更する可能性がある。

遅刻（授業開始20分）3回で欠席1回とする

予習・復習

- ・予習：各自の課題に応じた資料作成・教材作成
- ・復習：学んだことを元に他教科との関連を横断的に捉える。

評価方法

課題への取り組み	50%	発表	50%
----------	-----	----	-----

使用教科書名

- ・特になし。適時、資料を配布する。

保育・教育学演習Ⅱ（保育の社会学） ～子ども主体の遊び・生活の探究～

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
2年	前期	1	必修	-	選択必修	-

担当教員
小林 佳美

授業概要

本演習では、子ども主体の保育の意味と実際について、日本と諸外国の保育の比較や、特徴的な園の実践を捉え、ディスカッションを通して自分なりの考えを深められるように指導する。その際、実際の保育場面を想定し、自分なりに計画・実践・記録する活動を通して、理論と実践の展開を理解する。他に、子ども主体を目指して特徴的な取組を行う園をオンラインで見学し、園長先生にインタビューを行う機会を設け、その意義と面白さ、難しさにふれられるようにする。これらの活動を通して、自らの保育や子ども・家庭支援に対する展望を描き、プレゼンテーションすることで他者に伝える力を養う。

授業計画

第1回	オリエンテーション—子ども主体とは？ 意味と課題の共有
第2回	諸外国の保育実践①—レッジョ・エミリア
第3回	園外保育の計画
第4回	園外保育における身近な自然との出会いを生かした保育の展開
第5回	園外保育の振り返り—ドキュメンテーションの作成
第6回	諸外国の保育実践②—ニュージーランド
第7回	季節の行事・遊びの展開①計画
第8回	季節の行事・遊びの展開②実践
第9回	季節の行事・遊びの展開③ラーニングストーリーの作成
第10回	子ども主体の保育実践を保障するための園の挑戦①—オンライン見学とインタビュー
第11回	子ども主体の保育実践を保障するための園の挑戦②—オンライン見学とインタビュー
第12回	子ども主体の保育実践を保障するための園の挑戦③—動画視聴
第13回	自分の目指す保育又は子ども・家庭支援の展望①調査・資料検索
第14回	自分の目指す保育又は子ども・家庭支援の展望②発表資料作成
第15回	自分の目指す保育又は子ども・家庭支援の展望③プレゼンテーション

到達目標

- ①子どもの主体性を支える保育の保育実践、保育環境、保育者間の協働等を理解し、自らの将来の展望を自分なりに表現できるようになる。
- ②多様な保育実践にふれ、現場で活躍するための自らの課題意識を明確にする。
- ③指導計画と記録を作成する力量を高める。
- ④発表およびディスカッションの手法を身に付ける。

履修上の注意

- ・子どもの主体性を支える保育に関心を持ち、学生自身も主体的に授業に参加し、それぞれの得意分野に基づくリーダーシップを発揮しようとする姿勢を期待します。
- ・3回の遅刻で1回の欠席、30分以降の入室は欠席として扱います。

予習・復習

- ・予習：各自のテーマに沿った調べ学習や資料づくり。
- ・復習：毎時のリフレクション・シートを記入する。

評価方法

受講態度	50%	発表・提出物	50%
------	-----	--------	-----

使用教科書名

- ・指定しない。必要に応じて資料を配布する。